



National Institute of Informatics

NII Technical Report

**科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性
度の調査研究 - 2003 年度(平成 15 年度)版 - . 特別
研究員奨励費編**

**Evaluation of Japanese Universities' Research
Activity Based on the Number of Awards of
Grants-in-Aid for Scientific Research - 2003 Fiscal
Year - . Grant-in-Aid for JSPS Fellows**

光田好孝、野村浩康、前田正史、前橋 至、
根岸正光、柴山盛生、西澤正己、孫 媛、杉田茂樹
Yoshitaka MITSUDA, Hiroyasu NOMURA, Masafumi MAEDA,
and Itaru MAEBASHI,
Masamitsu NEGISHI, Morio SHIBAYAMA, Masaki NISHIZAWA,
Yuan SUN, and Shigeki SUGITA

NII-2005-008J
Apr.2005

Evaluation of Japanese Universities' Research Activity Based on the Number of Awards of Grants-in-Aid for Scientific Research – 2003 Fiscal Year – V. Grant-in-Aid for JSPS Fellows

Yoshitaka MITSUDA
Hiroyasu NOMURA
Masafumi MAEDA
Itaru MAEBASHI
Masamitsu NEGISHI
Morio SHIBAYAMA
Masaki NISHIZAWA
Yuan SUN
Shigeki SUGITA

科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度の調査研究 - 2003年度(平成15年度)版 - . 特別研究員奨励費編

光田好孝
野村浩康
前田正史
前橋 至
根岸正光
柴山盛生
西澤正己
孫 媛
杉田茂樹

科学研究費補助金採択研究課題数による
大学の研究活性度の調査研究
- 2003 年度(平成 15 年度)版 -
. 特別研究員奨励費編

光田好孝 前田正史 前橋至
東京大学

野村浩康
東京電機大学

根岸正光 柴山盛生 西澤正己 孫 媛 杉田茂樹
国立情報学研究所

Evaluation of Japanese Universities' Research Activity
Based on the Number of Awards of
Grants-in-Aid for Scientific Research – 2003 Fiscal Year –
V. Grant-in-Aid for JSPS Fellows

Yoshitaka MITSUDA, Masafumi MAEDA, Itaru MAEBASHI
The University of Tokyo

Hiroyasu NOMURA
Tokyo Denki University

Masamitsu NEGISHI, Morio SHIBAYAMA, Masaki NISHIZAWA,
Yuan SUN, Shigeki SUGITA
National Institute of Informatics

Abstract

The system of *Grants-in-Aid for Scientific Research* from Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan is one of the oldest ones, which is the funding system for researchers belonging to universities and institutes in Japan. The fund was allotted to each researcher by peer review under the application for their own research projects.

According to development of the science and technology, the research field codes of *Grants-in-Aid for Scientific Research* have been revised every five years. By the middle of 2002 fiscal year, the large modification was discussed and pursued on the research field codes. A new revised table on research field codes was used from the application for 2003 fiscal year research projects.

This is the fifth and last report for 2003 fiscal year's version, that is, the encouragement fund for JSPS (Japan Society for the Promotion of Science) fellows. As for other fund for research fields, the first report on humanity and social sciences, the second report on sciences and engineering, the third report on biosciences, and the fourth report on interdisciplinary and new area & large-scaled project funds were already published.

In order to educate young active researchers, JSPS has a special fellowship system. The *Grants-in-Aid* were allotted to the adopted JSPS fellows automatically to encourage their research activity. Therefore, the total number of adopted subjects corresponds to the number of young researcher candidates at each university and also to a degree of the role of each university educating young researchers. The total number of adopted subjects at 2003 has been summed up for each university and institute on individual research field, and compared to those of 1998-2002 which were reported previously. The large-scale national and big private universities, especially those originated from Imperial Universities, still played an important role to educate young active researchers.

目 次

・科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度の調査研究について

1 . はじめに	1
2 . 2003 年度（平成 15 年度）「系・分野・分科・細目表」の変更に伴う 採択研究課題の移行の包括的な状況	4
3 . 科学研究費補助金採択研究課題数データベース	6
4 . 調査分析の具体的な整理集計方針について	6

・科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度：特別研究員奨励費編

1 . 概要	8
2 . 部別	13
2 - 1 文系（文学・法学・経済学）	13
2 - 2 理系（理学・工学・農学）	21
2 - 3 医系（医学）	30
2 - 4 融合系（複合領域）	33

付録

部・分科・細目表 2002 年度（平成 14 年度）版	37
-----------------------------------	----

・科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性化の調査研究について

1. はじめに

科学研究費補助金の「系・部(分野)・分科・細目表」(以下「細目表」という。)は基盤研究等の種目に関し審査分野の区分を示す分類表であり、研究者は実施しようとする研究計画の内容を考え適切な細目を自ら選ぶことになっている。したがって、科学研究費補助金の「細目表」は不断に進展を続ける学問・研究の動向に合う適切なものでなければならない。

科学研究費補助金の「細目表」については1993年度(平成5年度)に抜本的改正が行われ、以後5年ごとに見直されることが平成5年度募集要項に付記された。学術審議会科学研究費分科会(当時)に「分科細目改正検討委員会」が設置されたが、1998年度(平成10年度)は小規模な改正に留められ、2003年度(平成15年度)に大幅な改正を行うことにした。

今回の改正は、学術審議会答申「科学技術創造立国を目指す我が国の学術研究の総合的推進について」(1999年(平成11年)6月29日)に基づき、2000年度(平成12年度)に学術審議会科学研究費分科会審査第一部会に「分科細目改正検討委員会」が設置され、「細目表」についての検討が続けられた。日本学術会議および17の関連学会等の修正・追加意見等を参考に、最終的に新たな「細目表」が決定された。

新たな「細目表」の策定にあたって、科学研究費補助金が人文・社会科学から自然科学までのあらゆる分野を対象とし、研究者の自発的な研究計画に柔軟に対応すると共に、円滑な審査が行えるようにという観点から、次の4点を中心に検討された。

- (1) 学問の進展に的確に対応するために細目を抜本的に見直すこと。
- (2) 研究者の申請にあたって適切な細目のない学際的領域への対応。
- (3) 伝統的な学問の分類に収まりきれない、新しい研究分野への対応。
- (4) 新しい学問分野の申請に対する適切な審査体制の確立。

その結果、今回2003年度(平成15年度)の「細目表」の改正はこれまでにない大幅なものになった。その要点は細かな制度的なことを除けば、次の3点にあると理解できる。

- (1) 「細目表」は、これまでの伝統的な学部(文学・法学・経済学・理学・工学・農学・医学)と複合領域との9つの「部」構成から、4系(総合・新領域系、人文社会系、理工系、生物系)構成へ変更され、細目数を242から278に増やした。
- (2) 部：複合領域を大幅に見直して「総合・新領域系」とし、2つの系にまたがる総合的な分野「総合領域」と2つ以上にまたがる比較的新しい分野「複合新領域」に分けて、柔軟に対応することとした。
- (3) 「総合・新領域系」の分科・細目を、キーワードにより複数のグループに分け、適切なキーグループ審査が導入された。これに伴い他の3系についても全ての細目にキーワードを付した。詳しくは次の科学技術・学術審議会のWebページを参照されたい。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/011220/011220.htm

2003年度(平成15年度)の「細目表」の大改訂を考慮して、昨年度(2003年度(平成15年度))に、1998年度(平成10年度)~2002年度(平成14年度)の5年間の全ての分野にわたって科学研究費補助金採択研究課題を分析した。その結果から我が国の大学・研究機関の研究活性化を調べ、国立情報学研究所の「NIIテクニカルレポート」(NII-2003-007J(2003),NII-2004-001~5J(2004))として、Web

上に公表した。

本調査報告は、同様の調査研究の2003年度（平成15年度）版である。このような調査研究には連続性が必要であるので、1998年度～2002年度の調査研究と同じ方針でデータの整理・分析を行う。特に、2003年度（平成15年度）の新しい「細目表」が研究者の申請・採択状況にどのような変化をもたらしたかを中心に解析することにする。

今回の改正で「細目表」は大幅に改訂されたが、科学研究費補助金の配分額の割合は多少変化したものの、研究種目そのものは変わっていない。したがって、1998年度（平成10年度）～2002年度（平成14年度）と同様に、個別課題研究費（基盤研究・萌芽研究・若手研究・特別研究員奨励費）と大型研究費（特別推進研究・特定領域研究・特別研究促進費・学術創成研究費）と研究成果公開促進費、審査・評価・分析経費に分け、個別課題研究費、大型研究費について解析する。

上記枠組みにおける2002年度（平成14年度）と2003年度（平成15年度）との予算配分変化を図1-1に示す。図から明らかなように、項目別予算はほとんど変化していない。言い換えれば、全体的な枠組みの変化はないと見ることができる。

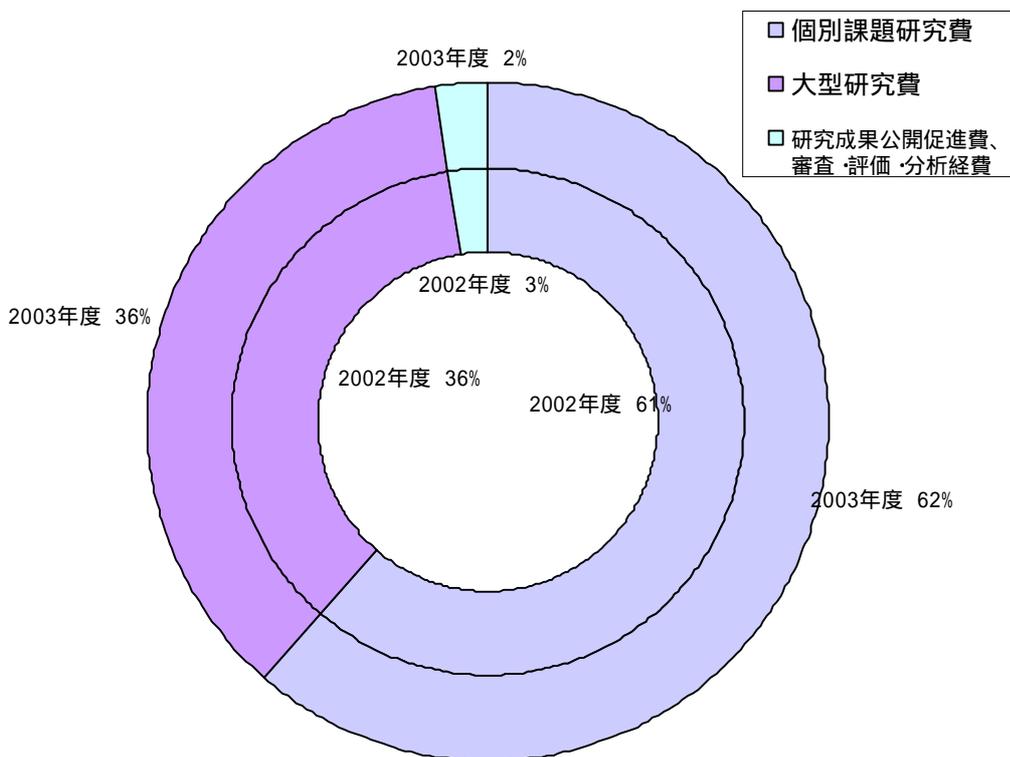


図1-1 2002年度(内周)と2003年度(外周)の科学研究費補助金の項目別予算

「細目表」は、伝統的な学部に対応する9つの「部」から4系・10分野に変更されている。個別課題研究費について、採択研究課題数の変化を次の図1-2-1と1-2-2に示す。大雑把に言えば、人文社会系が15%から17%に微増し、医学が33%から31%に多少減少した以外に目立った変化はない。

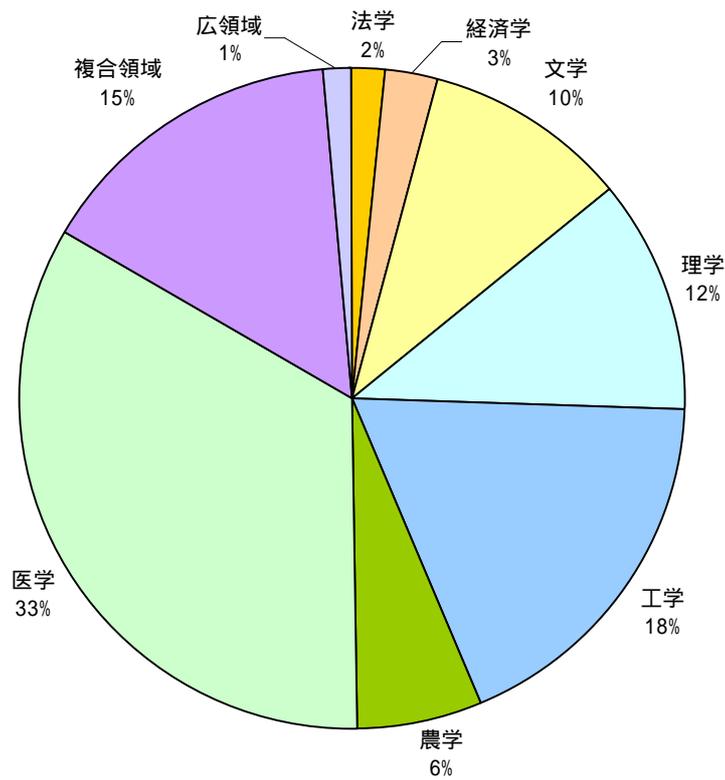


図 1 - 2 - 1 2002 年度科学研究費補助金の「部」別採択研究課題数の割合

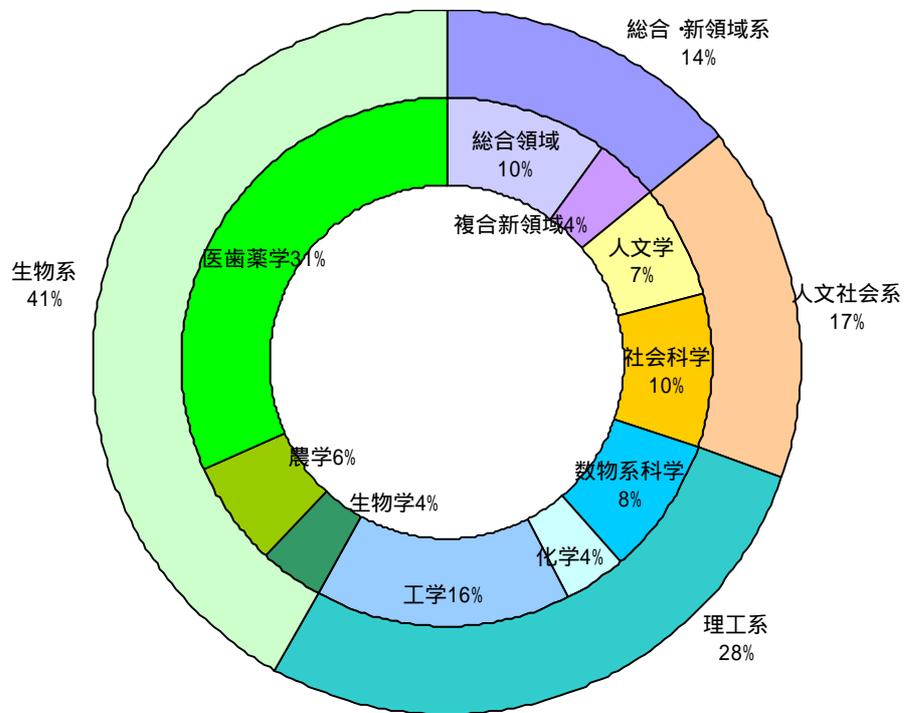


図 1 - 2 - 2 2003 年度科学研究費補助金の「系」別および「分野」別採択研究課題数の割合

2 . 2003 年度 (平成 15 年度)「系・分野・分科・細目表」の変更に伴う採択研究課題の移行の包括的な状況

2003 年度 (平成 15 年度) 科学研究費補助金の公募にあたって、日本学術振興会では 2002 年度 (平成 14 年度) 科学研究費補助金採択研究課題のうち、2003 年度 (平成 15 年度) に継続する研究課題の申請については、一部を除いて申請すべき新しい「細目」分野をすべて指示した。2003 年度 (平成 15 年度) の科学研究費補助金の個別研究費の採択研究課題数のうち新規・継続件数を整理すると全採択研究課題数 35,525 件中、継続課題数は 20,527 件で全採択研究課題数の 57.8% を占める。2002 年度 (平成 14 年度) からの継続研究課題について旧細目番号と新細目番号の両者を調べ、「分科」レベルでの移行の状況を図 1 - 3 に示す。旧研究コードの「分科」、新研究コードの「分科」は、それぞれの「部」または「分野」全体を 100 としたときの割合を併せて示してある。割合の少ないものは、ここでは省略してある。

なお、以下、2003 年度 (平成 15 年度) からの「細目表」を「新研究コード」、2002 年度 (平成 14 年度) までの「細目表」を「旧研究コード」と呼ぶこととする。

今回の改訂により、いくつかの点で大きく変更されたところがある。

人文社会系では、旧研究コードの部：文学の中の分科：心理学・社会学・教育学・文化人類学がそれぞれ新研究コードの「分科」として独立し、そのうち、分科：社会学、心理学、教育学は分野：社会科学に編入された。また、旧研究コードの分科：文学が新研究コードの分科：言語学、文学として再編されている。

理工系では、旧研究コードの部：理学の分科：生物学が新研究コードの系：生物系に移動した。また、旧研究コードの部：理学の分科：化学と部：工学の分科：応用化学系を新研究コードの分野：化学が包含し、新研究コードでは分野：数物系科学や工学と並ぶ「分野」となった。

生物系には、旧研究コードの部：理学の分科：生物学以外に、旧研究コードの部：農学、医学がグループとしてそのまま移行している。

これらの大きな改訂に合わせて複合領域は大幅に整理され、一部は新研究コードの系：人文社会系、理工系、生物系の各「分科」・「細目」に移行し、系：総合・新領域系として分野：総合領域と新複合領域とに整理された。これにあわせて、新たに、分科：ナノ・マイクロ科学、ゲノム科学、ジェンダー等が分野：新複合領域に分科として設けられた。

このような移行がどのような影響を与えたかは 2003 年度 (平成 15 年度) の新規採択研究課題数も含めた「分野」・「分科」ごとに大学別に採択研究課題数を見ていくことにする。

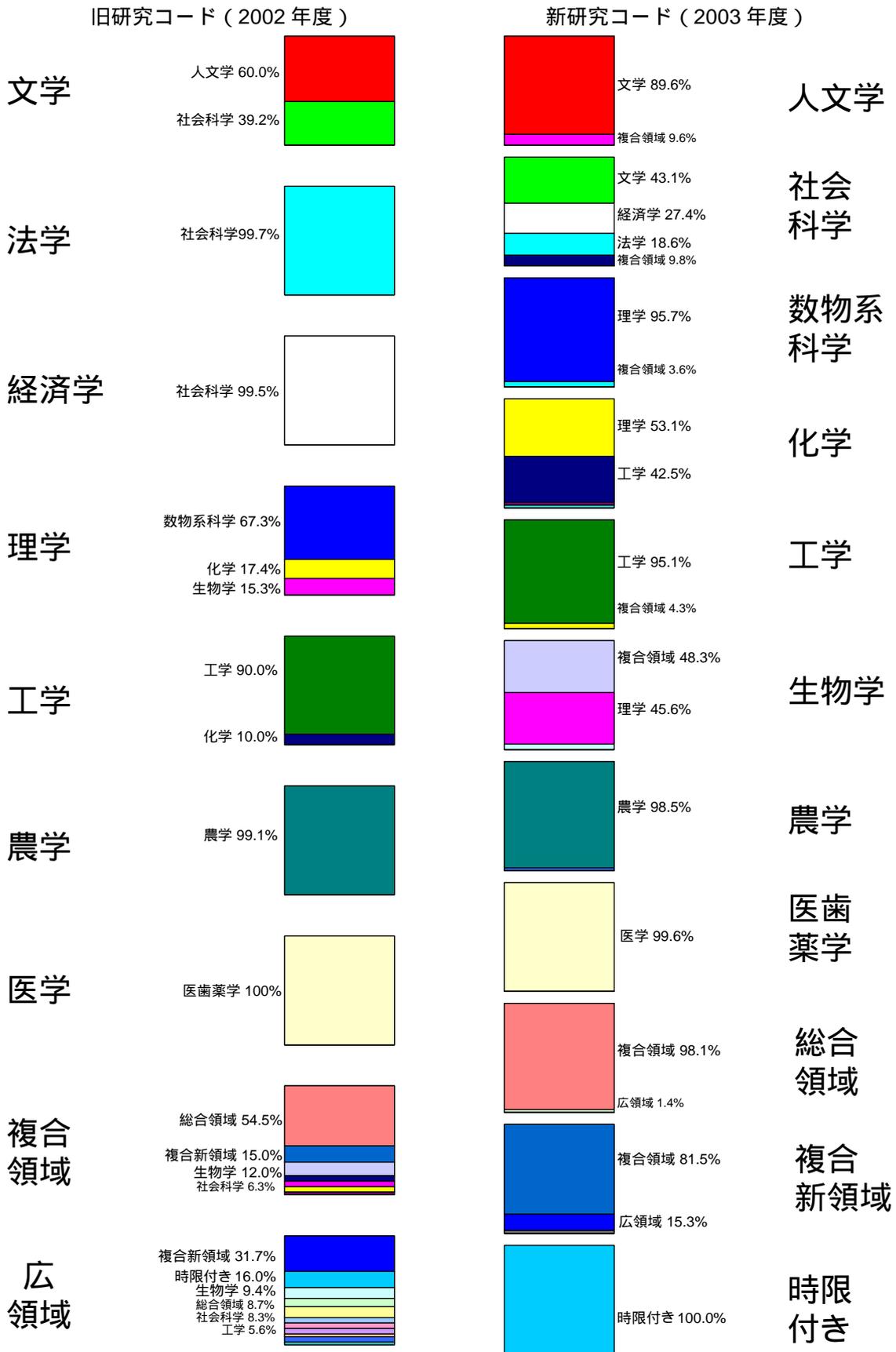


図 1 - 3 2003 年度継続採択研究課題の 2002 年度からの移行の状況

3 . 科学研究費補助金採択研究課題数データベース

科学研究費補助金採択件数その他、採択研究課題等については、「文部科学省科学研究費補助金採択課題・公募審査要覧」(ぎょうせい発行)として、毎年10月に公表・刊行されている。これらの科学研究費補助金採択課題等については、近年、国立情報学研究所からNACSIS-IR Web frontでも公開されている。

本調査研究、特に個別研究費の調査分析にはNACSIS-IR Web frontに公開されているデータベースを用いた。本調査分析に用いたデータベースの概要を表1 - 2に示した。

4 . 調査分析の具体的な整理集計方針について

特別研究員奨励費を除く個別研究費編では、科学研究費補助金採択研究課題数による大学・大学院の研究活性化を、科学研究費補助金申請及び採択に用いられた新研究コード、系・分野・分科・細目にしたがって整理した。しかし、NACSIS-IR Web frontに公開されているデータベース上での特別研究員奨励費については、基本的に旧研究コードが用いられ、追加採用された特別研究員からの申請による研究課題に限り新研究コードが用いられている。このため、特別研究員奨励費の採択研究課題数のうち、旧研究コードにより分類可能な研究課題が大半を占めている。したがって、前回の1998年度(平成10年度)～2002年度(平成14年度)の分析の方針と同じく、旧研究コードを用いて行った。

したがって、本調査・研究では次の方法で整理・分析することにする。

- (1) 特別研究員奨励費全体の採択研究課題の総数(新・旧研究コードすべてを含む)による機関別順位(50位まで)を整理する。
- (2) 大部分を占める旧研究コードの採択研究課題を、新研究コードの「系」と大雑把に対応するように、旧研究コードのいくつかの「部」をまとめて分野別にある程度統合する。文系(部:文学、法学、経済学)、理系(部:理学、工学、農学)、医系(部:医学)、融合系(部:複合領域)の採択研究課題の総数(旧研究コードのみ)による機関別順位(30位まで)。
- (3) 各「部」の採択研究課題の総数(旧研究コードのみ)による機関別順位(30位まで)。
- (4) 「分科」および「細目」については、今回は2003年度(平成15年度)単年度でもあり、調査件数が少ないことから、分析の対象にはしなかった。この点については、現在の「細目表」が用いられる5年間の採択研究課題数の動向をいずれ見るときに改めて調査・分析の対象としたい。

表1 - 2 本調査・分析に用いたデータベースの概要（2003年度）

金額単位/千円

2003 (H15)			
	分野名	採択件数	配分額
若手研究 (A)	総合領域	41	276.700
	複合新領域	20	173.900
	人文学	9	25.800
	社会科学	12	31.800
	数物系科学	34	245.400
	化学	31	247.200
	工学	97	701.500
	生物学	23	161.900
	農学	24	156.700
医歯薬学	69	438.100	
若手研究 (B)	総合領域	939	1,323.900
	複合新領域	278	442.100
	人文学	443	450.900
	社会科学	827	916.200
	数物系科学	658	844.400
	化学	347	555.200
	工学	1,306	1,901.900
	生物学	329	516.900
	農学	432	644.200
医歯薬学	2,660	3,812.000	
基盤研究 (A)	総合領域	152	1,563.200
	複合新領域	119	1,356.700
	人文学	143	1,109.400
	社会科学	130	1,072.100
	数物系科学	192	1,947.400
	化学	83	968.700
	工学	358	4,104.000
	生物学	87	901.300
	農学	139	1,372.000
医歯薬学	269	2,817.400	
基盤研究 (B)	総合領域	701	3,073.700
	複合新領域	361	1,751.300
	人文学	461	1,549.500
	社会科学	670	2,195.000
	数物系科学	589	2,412.900
	化学	364	1,805.300
	工学	1,395	6,325.800
	生物学	307	1,532.300
	農学	653	3,013.200
医歯薬学	1,999	8,889.800	
基盤研究 (C)	総合領域	1,341	1,809.300
	複合新領域	437	613.000
	人文学	1,271	1,245.800
	社会科学	1,554	1,585.900
	数物系科学	1,183	1,374.100
	化学	415	605.300
	工学	1,749	2,323.100
	生物学	457	662.500
	農学	706	943.400
医歯薬学	5,081	7,097.000	
時限付き	136	229.500	
基盤研究 (S)	総合領域	18	346.400
	複合新領域	10	215.900
	人文学	7	100.300
	社会科学	4	51.500
	数物系科学	26	495.400
	化学	16	326.600
	工学	49	1,033.500
	生物学	16	342.300
	農学	15	323.900
医歯薬学	37	744.100	
萌芽研究	総合領域	338	479.200
	複合新領域	152	260.000
	人文学	119	120.400
	社会科学	205	209.800
	数物系科学	205	258.600
	化学	170	271.200
	工学	553	815.300
	生物学	138	217.200
	農学	240	356.100
医歯薬学	1,126	1,619.600	
特別研究員奨励費	全体	4,965	4,919,450

注 特別研究員奨励費の
2重登録3件を除く

・科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度：特別研究員奨励費編

1．概要

特別研究員（最長任期3年）とは、「優れた若手研究員を養成・確保するため、自由な発想のもとに主体的な研究を進める機会を与える」ために、博士課程の在学者もしくは修了者が自ら日本学術振興会に申請し、審査による選考を経て採用された萌芽的な研究者といえる。特別研究員奨励費は、科学研究費補助金の個別研究種目のひとつであるが、日本学術振興会特別研究員が行う研究に対する助成（研究期間1年）であり、採用期間の間、毎年申請すれば基本的には申請した研究課題が採択されることになっている。したがって、特別研究員奨励費は基盤研究(A)、(B)、(C)、萌芽研究、若手研究等とは異なり、日本学術振興会の採用する特別研究員となることがこの研究費を得るための必須条件である。

特別研究員奨励費の採択・配分は科学研究費補助金の全ての研究細目にわたっている。2003年度（平成15年度）の「細目表」の改訂によって、特別研究員奨励費以外の個別研究は新研究コードを用いている。しかし、章4で述べたように、特別研究員奨励費は基本的に旧研究コードが用いられ、追加採用された特別研究員からの申請による研究課題に限り新研究コードが用いられている。この理由は定かではない。特別研究員の申請は前年度の5月上旬頃であり、この時点では新しい「細目表」は確定していなかったはずであるが、特別研究員の採用決定通知は前年度12月であり特別研究員奨励費の申請は通常の科学研究費補助金の申請締切（前年度11月末）より遅い時期であることから新研究コードによる申請も可能であったはずである。おそらく、特別研究員の申請手続き書類等に、旧研究コードによる科学研究費補助金の申請に関する記述等があり、このために、旧研究コードを用いることになったものと推測される。参考のために、付録に、2002年度（平成14年度）の旧「細目表」を示す。

特別研究員奨励費の採択研究課題数を旧研究コードの「部」または新研究コードの「分野」別に表2-1に示す。また、大部分を占める旧研究コードの「部」別の分布を図2-1の円グラフに示す。この分布は、1998年度（平成10年度）～2002年度（平成14年度）の5年間の合計と比較して、ほとんど変化がない。四捨五入により端数があわないが、理学が2%減、工学が1%増、農学が1%増、複合領域が1%増となっている。

新旧の研究コードに関わらず特別研究員奨励費全体での機関別採択研究課題数の上位50位を表2-2に、その棒グラフを図2-2に示す。図から明らかなように、東京大学が群を抜いており、京都大学がそれに続いている。旧帝国大学と東京工業大学までとそれ以降とでは明らかに段差があり、以下、筑波大学、早稲田大学、慶應義塾大学と続き、あとはなだらかに減少する。この状況は、1998年度（平成10年度）～2002年度（平成14年度）の5年間の合計と比較して、一見するとほとんど変化がないように見える。

表 2 - 1 特別研究員奨励費「部」または「分野別」採択研究課題数（2003 年度）

金額単位/千円

部または分野		件数	金額
旧研究コード	文学	739	675,800
	法学	113	89,000
	経済学	99	84,900
	理学	1,245	1,309,400
	工学	857	834,750
	農学	541	550,600
	医学	500	519,800
	複合領域	763	780,800
	小計	4,857	4,845,050
新研究コード	総合領域	7	5,600
	複合新領域	8	6,000
	人文学	5	3,100
	社会科学	23	10,100
	数物系科学	18	14,000
	工学	22	16,800
	生物学	3	2,400
	農学	1	800
	医歯薬学	21	15,600
	小計	108	74,400
合計		4,965	4,919,450

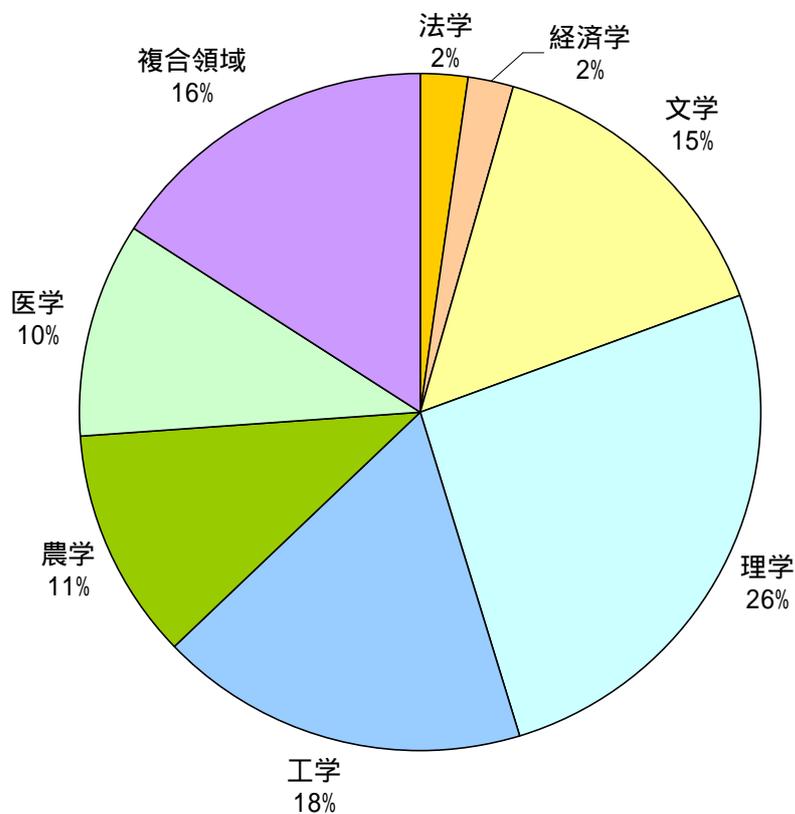


図 2 - 1 特別研究員奨励費「部」採択研究課題数（2003 年度）

表 2 - 2 特別研究員奨励費採択研究課題数上位 50 位 (2003 年度)

金額単位/千円

順位	種別	機関名	件数	金額
1	国	東京大学	999	991,500
2	国	京都大学	662	662,400
3	国	大阪大学	317	316,900
4	国	東北大学	261	258,700
5	国	名古屋大学	210	209,300
6	国	北海道大学	198	195,600
7	国	九州大学	173	174,350
8	国	東京工業大学	172	173,300
9	国	筑波大学	109	102,700
10	私	早稲田大学	107	98,700
11	私	慶應義塾大学	82	75,300
12	他	(独)産業技術総合研究所	61	71,400
13	国	神戸大学	59	51,000
14	国	広島大学	57	55,600
15	公	東京都立大学	54	51,400
16	国	千葉大学	46	44,300
16	国	一橋大学	46	41,500
18	国研	岡崎国立共同研究機構	40	44,900
19	国	岡山大学	38	38,600
20	国研	高エネルギー加速器研究機構	33	34,100
21	国	岐阜大学	32	29,700
22	国	東京農工大学	31	30,100
23	国	東京医科歯科大学	28	29,000
23	国	金沢大学	28	28,500
25	公	大阪市立大学	27	25,400
26	国	新潟大学	26	24,800
27	国	愛媛大学	23	24,700
27	私	東京理科大学	23	23,600
29	国	奈良先端科学技術大学院大学	22	22,000
29	国	横浜国立大学	22	21,900
29	国	お茶の水女子大学	22	21,600
29	国	東京外国語大学	22	18,000
33	国	熊本大学	21	21,500
34	公	大阪府立大学	19	18,500
35	国	長崎大学	18	16,600
36	国	奈良女子大学	17	16,000
37	私	上智大学	16	15,700
37	私	立命館大学	16	15,400
39	国	三重大学	15	15,300
40	国研	国立天文台	14	17,300
40	国研	宇宙科学研究所	14	15,300
40	国	静岡大学	14	14,300
40	国	総合研究大学院大学	14	13,100
44	私	立教大学	13	12,300
44	国	信州大学	13	11,700
44	国	豊橋技術科学大学	13	11,500
44	国	琉球大学	13	11,300
44	国	徳島大学	13	11,000
49	公	姫路工業大学	12	12,100
49	私	関西学院大学	12	11,800
49	国	鳥取大学	12	11,600
49	国	岩手大学	12	11,500
		合計	4,965	4,919,450

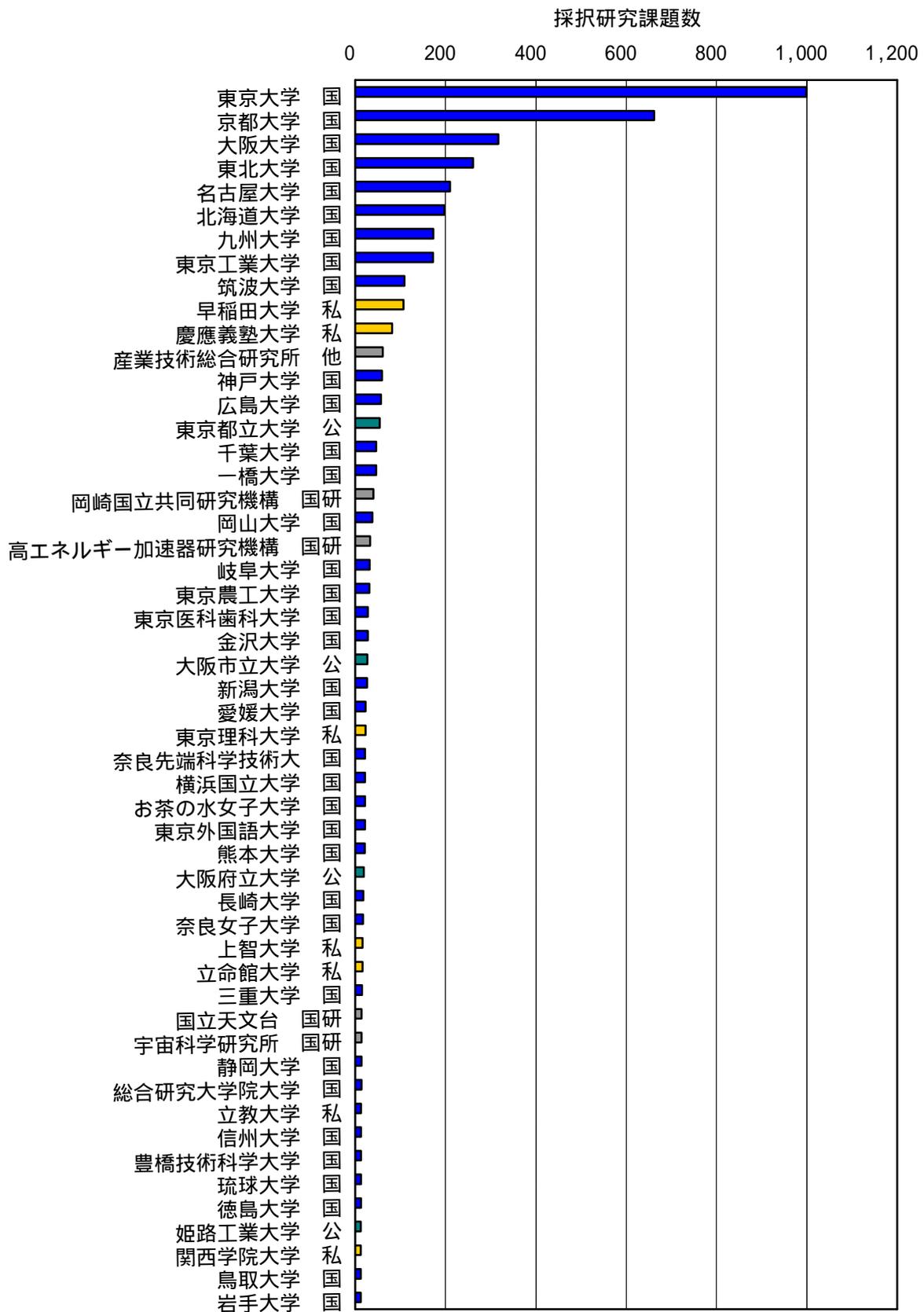


図 2 - 2 特別研究員奨励費採択研究課題数上位 50 位 (2003 年度)

上位 15 大学の相対的な特別研究員奨励費の採択数の割合を見るために、円グラフにして図 2 - 3 に示す。東京大学から東京工業大学の上位 8 機関で全採択数の 60%、15 位の東京都立大学までで 71%を占める。表 2 - 2 に示した 50 位までで全体の実に 87%を占めている。このグラフはわが国の研究者の養成・確保に対する旧帝国大学系総合大学の役割の重さを如実にあらわしている。しかし、1998 年度（平成 10 年度）～2002 年度（平成 14 年度）の 5 年間の合計と比較すれば、わずかではあるが上位機関への集中度が緩和されてきている。上位 8 機関は順位も含めて変化していないが、その占める割合は 67%から 60%に減少している。同様に、上位 15 機関が占める割合は 78%から 71%に、上位 50 機関が占める割合は 91%から 87%まで減少している。これは、主に、東京大学が 5 %、京都大学が 3 % 減少した影響が大きいためと思われる。

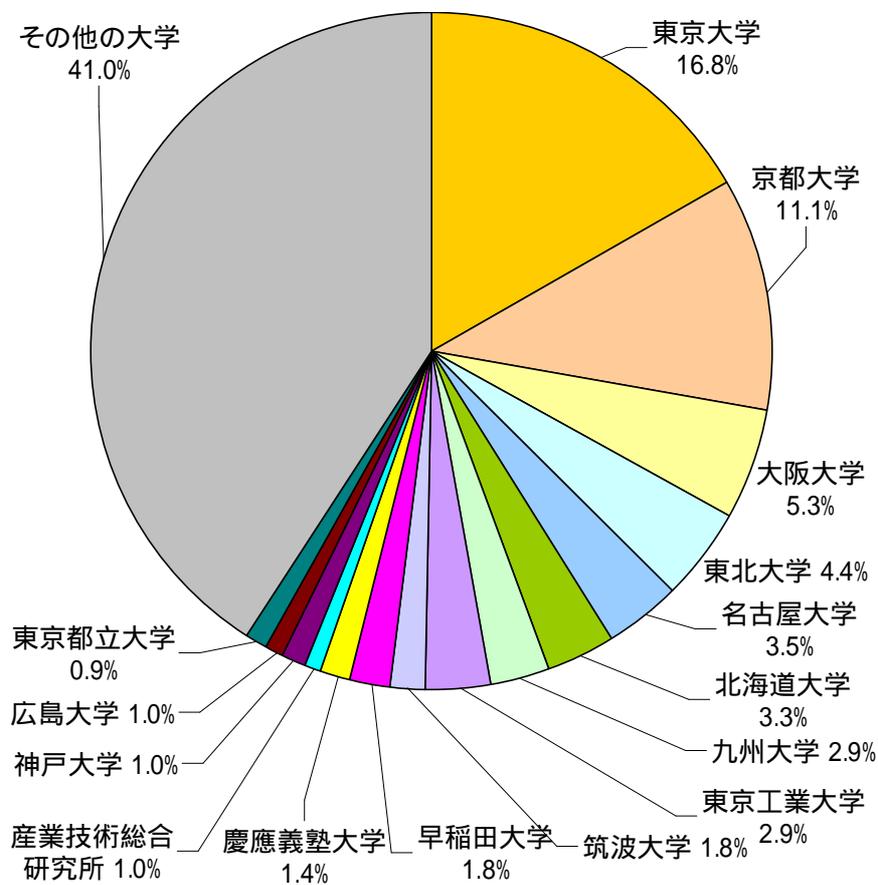


図 2 - 3 特別研究員奨励費上位 15 機関とその他の大学の相対的採択件数の割合（2003 年度）

2 . 部別

2 - 1 文系（文学・法学・経済学）

新研究コードの系：人文社会系に、旧研究コードの中で大まかに対応するのは、部：文学、法学、経済学である。これらを文系として合計した全体での機関別採択研究課題数を表 2 - 3 に、その棒グラフを図 2 - 4 に示す。

文系の特別研究員奨励費の採択研究課題数については、東京大学と京都大学が他の機関を圧倒していることがわかる。東京大学が全体の約 1/4 となる 24.6%、京都大学が 14.3%、私立大学最上位の早稲田大学 4.6% である。これに対して、多少古いデータではあるが、1991 年度（平成 3 年度）～2000 年度（平成 12 年度）の間の人文科学および社会科学分野における課程博士号授与数では、国立大学が全体の 62.9% を占め、東京大学が最多の 12.1%、京都大学が第 2 位の 7.7%、私立大学で最多の慶應義塾大学が 4.1%、早稲田大学が 4.6% となっている。前に述べた特別研究員奨励費の性格を考えると、東京大学や京都大学が上位となっていることは当然といえる。総採択研究課題数に対する各機関の課題数の占める割合が学位授与数に比べて上位に偏っている。学位を授与されていない博士課程修了者であっても特別研究員に採択される者が多いことを考えれば、このような偏りがあるのかもしれない。

文系全体としてみれば、特別研究員は、東京大学と京都大学を除けば非常に幅広く所属しており、私立大学や研究所等にも多い。しかし、単年度のため採択研究課題数が少なく、機関別順位やその占める割合に統計的に意味があるかどうかは不明である。

以下、旧研究コードの文学、法学、経済学の各「部」について、I 章で述べた方針にしたがって上位 30 位までを表にまとめ、表 2 - 4 - 1 ～ 2 - 4 - 2 に示す。なお、旧研究コードの部：文学のうち分科：心理学・社会学・教育学・文化人類学が、新研究コードでは分野：社会科学のなかで社会学、心理学、教育学が独立した「分科」として取り扱われるようになっている。これらとの比較から、特に、旧研究コードの部：文学、分科：心理学・社会学・教育学・文化人類学についても、機関別採択研究課題数上位 30 位をあわせて示すこととする。この表に対応した各「部」の機関別の棒グラフを図 2 - 5 - 1 ～ 2 - 5 - 4 に示す。

部：文学では、文系全体と同じく、東京大学と京都大学が他の機関を圧倒しており、東京大学が全体の約 1/4 を占め、京都大学が東京大学の約半数を占める。これは、文系の採択研究課題数の大部分を部：文学が占めているためである。部：法学でも、部：文学と同じ構造となっている。

部：経済学では、東京大学と京都大学が同数となり、3 位の一橋大学が採択件数で肉迫している。

表 2 - 3 文系採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

金額単位/千円

順位	種別	機関名	件数	金額
1	国	東京大学	244	228,000
2	国	京都大学	136	120,700
3	私	早稲田大学	44	35,500
4	国	一橋大学	43	39,900
4	国	大阪大学	43	38,700
6	国	東北大学	35	30,400
7	国	名古屋大学	27	24,100
8	国	九州大学	25	23,000
8	国	筑波大学	25	20,200
10	私	慶應義塾大学	24	20,700
11	国	北海道大学	23	18,800
12	公	東京都立大学	21	17,100
13	国	東京外国語大学	20	15,700
14	国	神戸大学	14	9,700
15	国	お茶の水女子大学	12	11,800
16	国	千葉大学	11	10,500
16	国	広島大学	11	9,600
18	私	上智大学	10	10,900
18	私	立教大学	10	8,900
20	国研	国立民族学博物館	7	7,100
20	私	中央大学	7	6,100
20	国	奈良女子大学	7	5,600
20	私	立命館大学	7	5,400
20	国研	国際日本文化研究センター	7	5,300
25	公	大阪市立大学	6	5,100
25	国	東京芸術大学	6	5,100
27	国研	国文学研究資料館	5	5,900
27	他	東洋文庫	5	5,000
27	国研	国立教育政策研究所	5	4,500
27	私	関西大学	5	3,600
合計			951	849,700

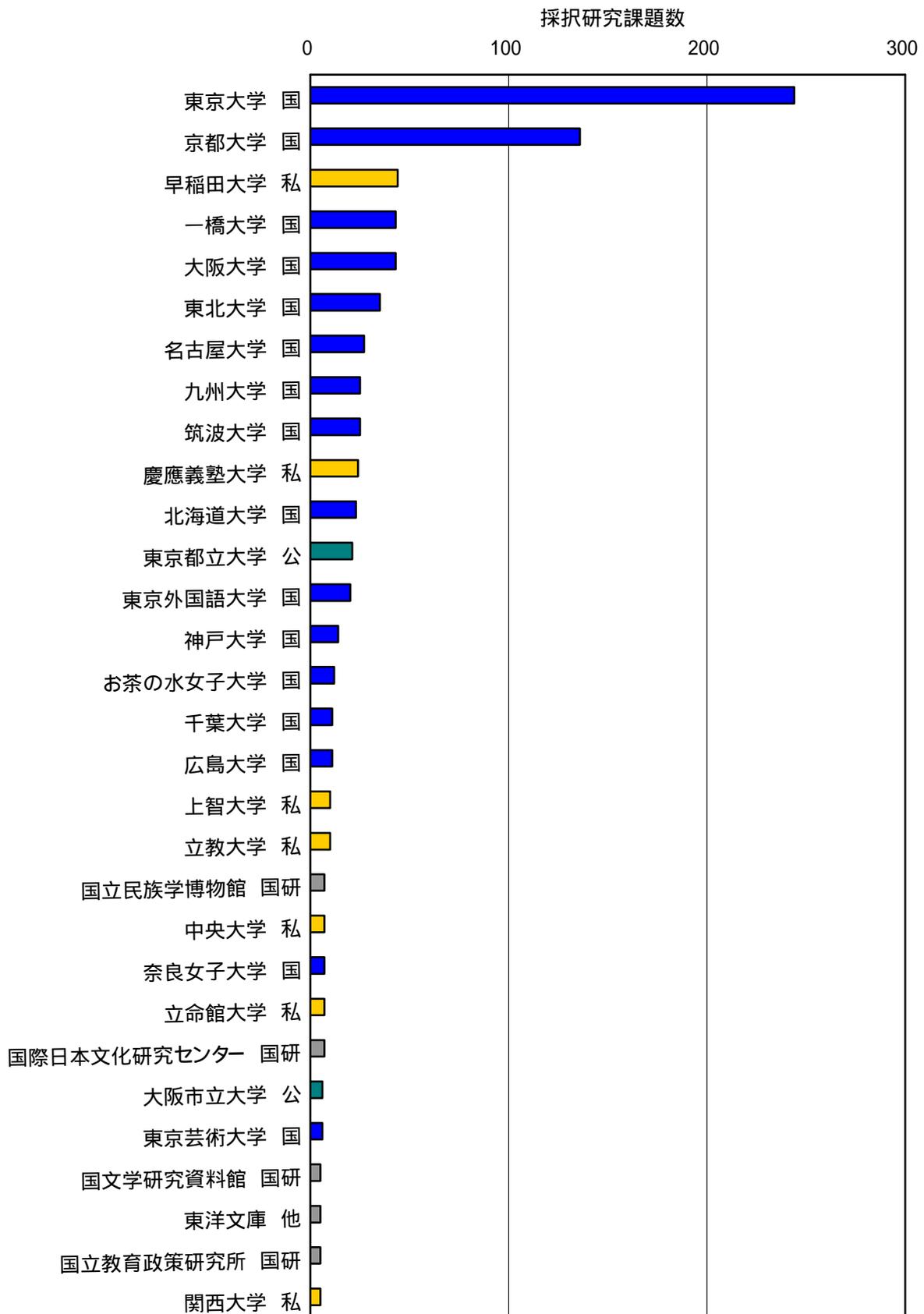


図2 - 4 文系採択研究課題数上位30位(2003年度)

表2 - 4 - 1 文系「部」別採択研究課題数上位30位(2003年度)(1)

金額単位/千円

文学					分科 心理学・社会学・教育学・文化人類学				
順位	種別	機関名	件数	金額	順位	種別	機関名	件数	金額
1	国	東京大学	184	177,000	1	国	東京大学	70	72,400
2	国	京都大学	105	96,100	2	国	京都大学	44	47,300
3	国	大阪大学	37	33,600	3	国	大阪大学	17	16,700
4	私	早稲田大学	35	28,600	4	国	東北大学	16	15,600
5	国	東北大学	29	25,500	5	国	一橋大学	14	14,500
6	国	一橋大学	24	24,900	6	私	早稲田大学	13	10,200
7	国	筑波大学	23	19,000	7	国	名古屋大学	12	11,300
8	国	名古屋大学	20	18,800	8	国	筑波大学	11	10,300
8	国	東京外国語大学	20	15,700	9	国	九州大学	10	10,000
10	国	九州大学	19	17,900	10	国	広島大学	8	7,800
10	公	東京都立大学	19	15,700	10	公	東京都立大学	8	7,100
12	私	慶應義塾大学	18	15,600	12	国	お茶の水女子大学	7	7,400
13	国	北海道大学	16	13,500	12	私	慶應義塾大学	7	5,900
14	国	お茶の水女子大学	12	11,800	14	国	千葉大学	6	6,500
15	国	千葉大学	11	10,500	14	国研	国立民族学博物館	6	6,000
15	国	広島大学	11	9,600	16	国研	国立教育政策研究所	5	4,500
17	私	上智大学	8	8,500	17	私	上智大学	4	4,300
18	国研	国立民族学博物館	7	7,100	17	国	東京外国語大学	4	3,700
18	国	奈良女子大学	7	5,600	17	国	北海道大学	4	3,600
18	私	立教大学	7	5,500	17	私	立教大学	4	3,400
18	国研	国際日本文化研究センター	7	5,300	17	国	神戸大学	4	3,200
18	国	神戸大学	7	5,200	22	国	奈良女子大学	3	2,900
23	国	東京芸術大学	6	5,100	22	私	関西学院大学	3	2,800
23	公	大阪市立大学	6	5,100	22	公	大阪市立大学	3	2,800
25	国研	国文学研究資料館	5	5,900	22	国研	国際日本文化研究センター	3	2,600
25	他	東洋文庫	5	5,000	26	国	東京学芸大学	2	2,700
25	国研	国立教育政策研究所	5	4,500	26	他	国立精神・神経センター	2	2,200
25	私	立命館大学	5	4,000	26	国研	総合地球環境学研究所	2	2,100
25	私	関西大学	5	3,600	26	他	(独)産業技術総合研究所	2	2,100
30	私	関西学院大学	3	2,800	26	私	法政大学	2	2,000
30	私	中央大学	3	2,400	26	私	玉川大学	2	2,000
					26	私	関西大学	2	1,500
合計			739	675,800	合計			313	309,400

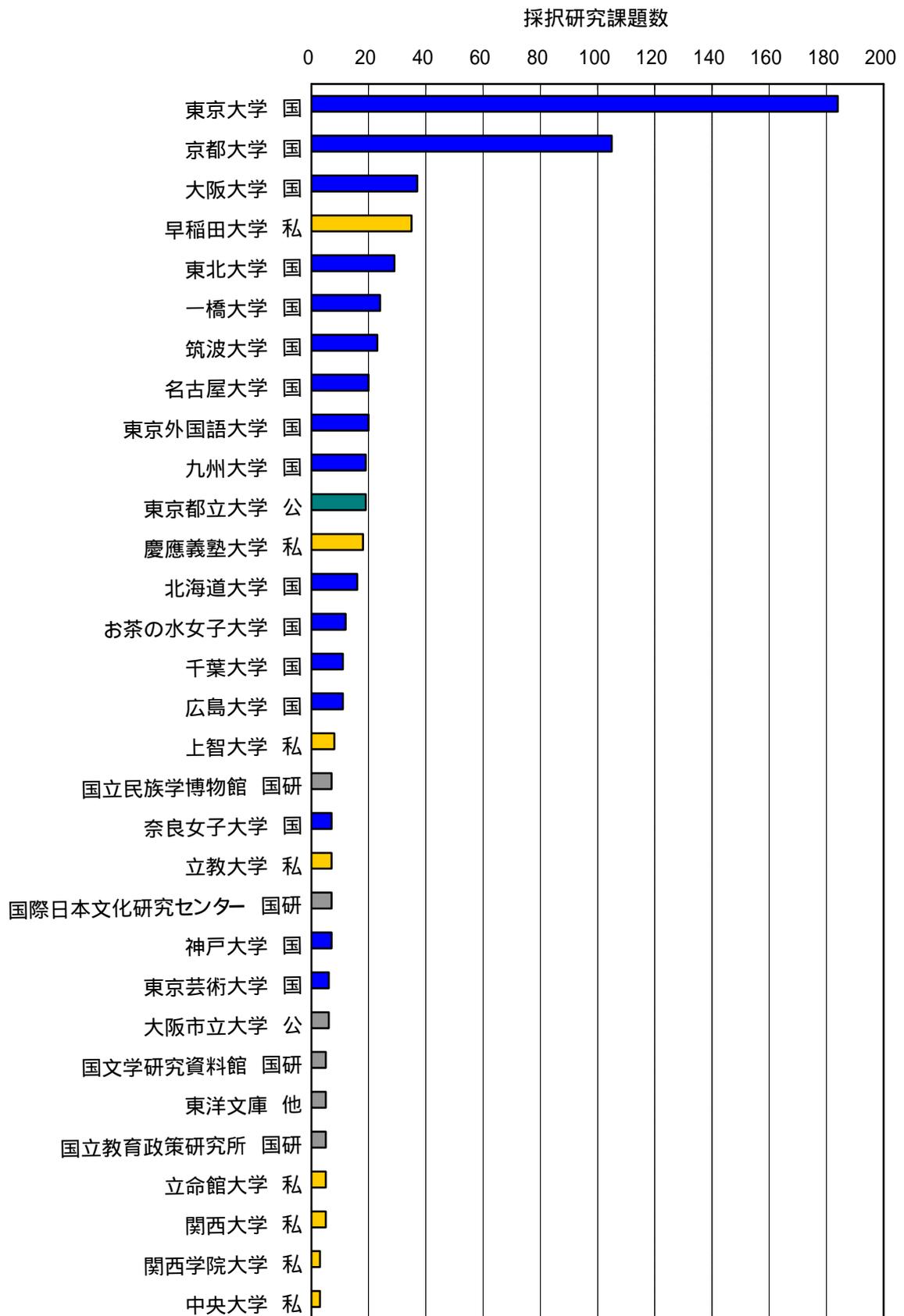


図 2 - 5 - 1 文学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

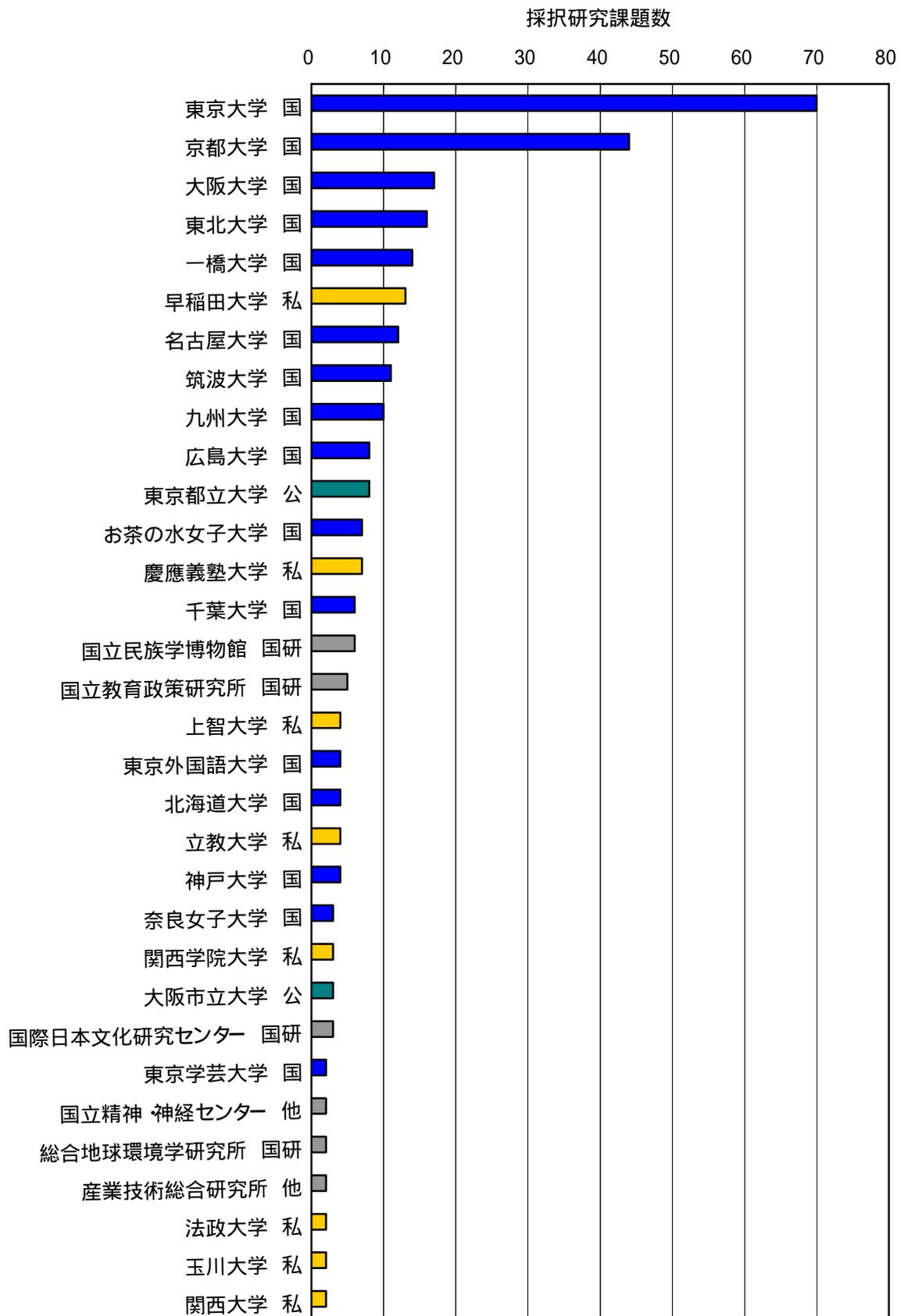


図2 - 5 - 2 分科：心理学・社会学・教育学・文化人類学採択研究課題数上位30位（2003年度）

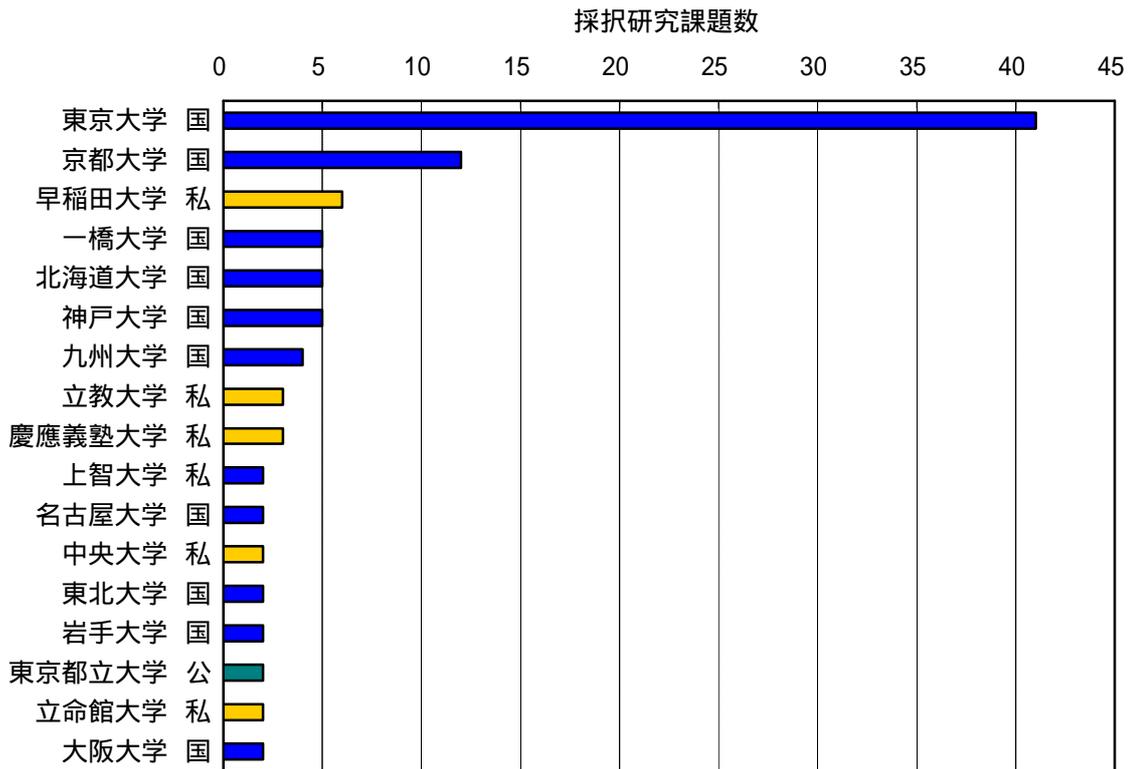


図 2 - 5 - 3 法学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

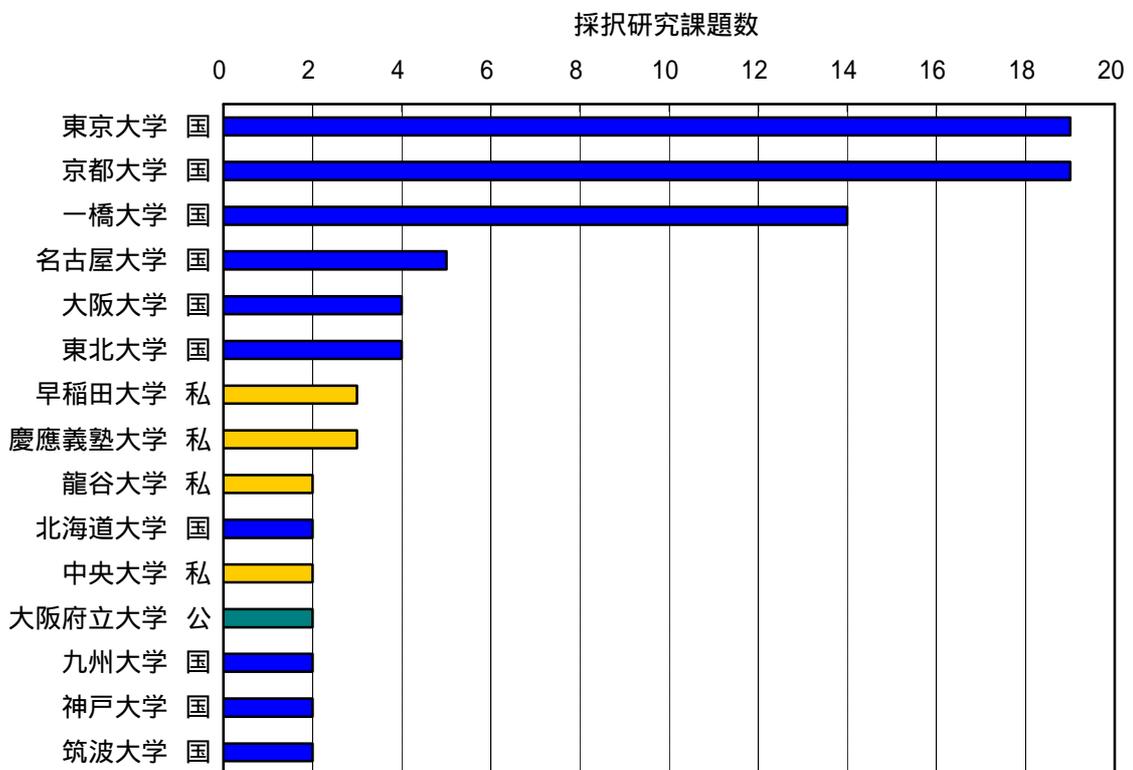


図 2 - 5 - 4 経済学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

2 - 2 理系（理学・工学・農学）

新研究コードの系：理工系に、旧研究コードの中で大まかに対応するのは、部：理学、工学、農学である。厳密に言えば、部：農学は、新研究コードの系：生物系に含まれるが、2002年度（平成14年度）までの5年間の採択研究課題数をまとめた結果との連続性を考慮し、部：農学も含めることとする。これらを理系として合計した全体での機関別採択研究課題数を表2 - 5に、その棒グラフを図2 - 6に示す。

理系の特別研究員奨励費の採択研究課題数についても、東京大学と京都大学が上位を占めるが、文系の場合ほど他の研究機関との差は大きくない。しかし、文系と比較して、国立大学が上位を占め、旧帝国大学と東京工業大学に全体の67.4%が集中し、公立大学や私立大学が占める割合が小さいことがわかる。東京大学が全体の約1/4近い21.3%、京都大学が14.5%、私立大学最上位の早稲田大学が2.0%である。これに対して、多少古いデータではあるが、1991年度（平成3年度）～2000年度（平成12年度）の間の理学、工学、農学分野における課程博士号授与数では、国立大学が圧倒的に多く全体の87.1%を占め、東京大学が最多の14.7%、京都大学が第2位の7.1%であり、旧帝国大学と東京工業大学の合計が55.6%である。これに対して、公立大学で最多の東京都立大学が1.0%、私立大学で最多の早稲田大学が1.6%、慶應義塾大学が1.3%となっている。これらから、文系の場合よりも、採択研究課題数と学位授与数との相関がよいことがわかる。これは、理系の場合には、単位取得中退のような学位を授与されずに特別研究員に採用されることが少ないためと思われる。

以下、旧研究コードの理学、工学、農学の各「部」について、I章で述べた方針にしたがって上位30位までを表にまとめ、表2 - 6 - 1～2 - 6 - 2に示す。なお、理学と工学を分離していない大学院研究科が数多く存在し、また、理学と工系を融合した大学院研究科も近年いくつも新設されている。これらとの比較から、部：理学と工学をあわせた理工合計についても、機関別採択研究課題数上位30位をあわせて示すこととする。この表に対応した各「部」の機関別の棒グラフを図2 - 7 - 1～2 - 7 - 4に示す。

部：理学では、部：文学と同じく、東京大学と京都大学が他の機関を圧倒しており、東京大学が全体の約1/4近くを占め、京都大学が東京大学の約2/3を占める。

部：工学では、部：理学と異なり、東京大学が1位であっても、上位機関の差が小さいことがわかる。5位の大阪大学と6位の名古屋大学の間には段差があり、その後は、徐々に減少する。

部：農学では、大半を国立大学と研究所が占める。この分野の大学院研究科をもつ大学は少なく、特に、私立大学では圧倒的に少ないことが、反映された結果といえる。

表 2 - 5 理系採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

金額単位/千円

順位	種別	機関名	件数	金額
1	国	東京大学	524	529,800
2	国	京都大学	357	369,600
3	国	東北大学	168	167,100
4	国	東京工業大学	138	143,200
5	国	名古屋大学	135	137,200
6	国	大阪大学	131	133,100
7	国	北海道大学	125	127,200
8	国	九州大学	82	82,050
9	私	早稲田大学	50	51,700
10	国	筑波大学	44	44,400
11	他	(独)産業技術総合研究所	42	50,100
12	私	慶應義塾大学	33	33,100
13	国研	高エネルギー加速器研究機構	32	33,200
14	国	広島大学	28	28,700
15	国	神戸大学	27	25,800
15	国	東京農工大学	27	25,800
17	公	東京都立大学	26	27,600
17	国	岡山大学	26	26,100
19	国	岐阜大学	24	22,300
20	国研	岡崎国立共同研究機構	23	25,000
21	国	千葉大学	17	16,700
22	私	東京理科大学	16	16,600
22	国	横浜国立大学	16	15,700
24	国研	国立天文台	14	17,300
24	国研	宇宙科学研究所	14	15,300
24	国	金沢大学	14	14,100
24	公	大阪府立大学	14	13,900
28	公	大阪市立大学	12	11,700
29	国	愛媛大学	11	12,000
29	国	熊本大学	11	10,700
29	国	信州大学	11	9,800
合計			2,643	2,694,750

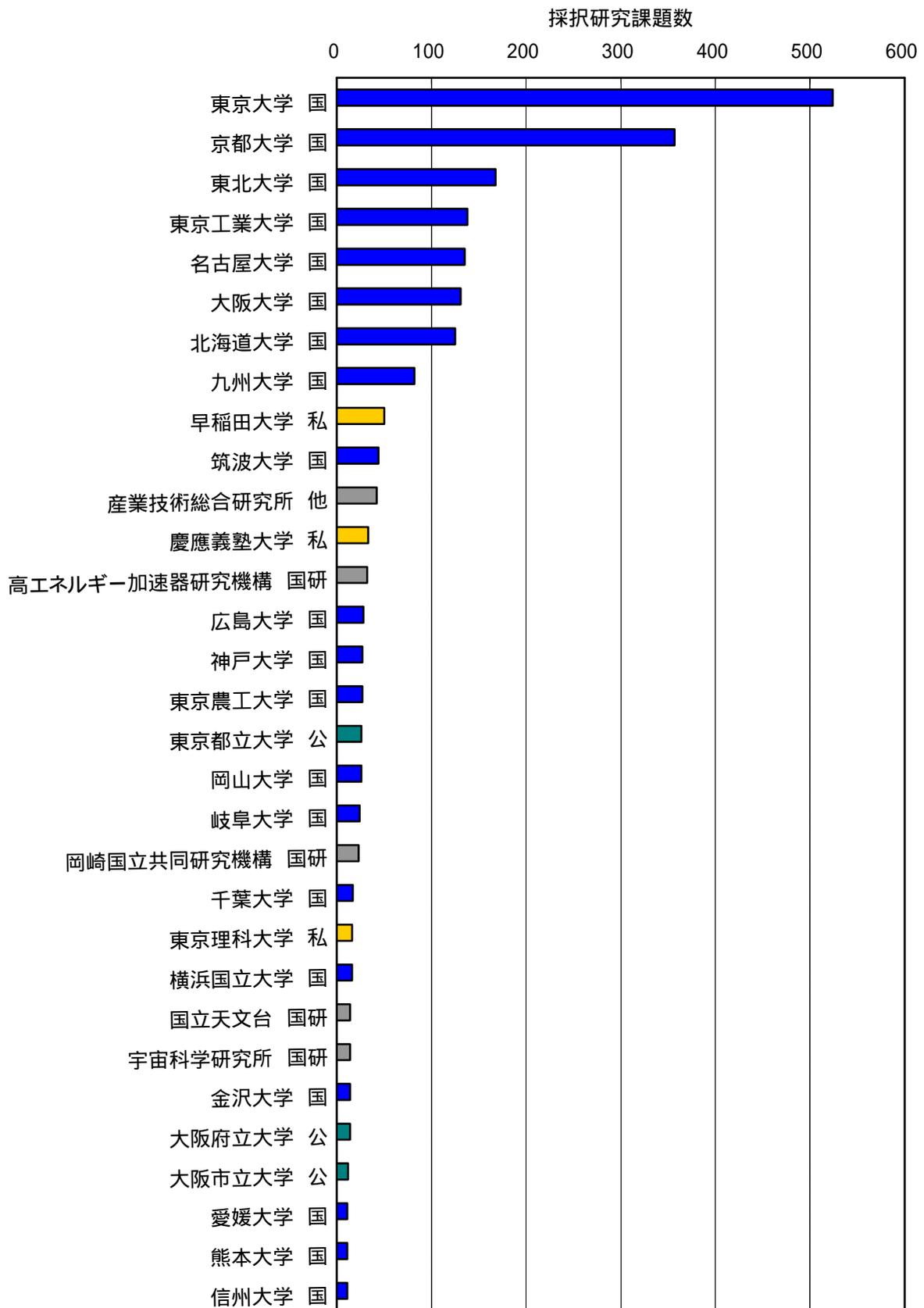


図 2 - 6 理系採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

表2-6 1 理系「部」別採択研究課題数上位30位(2003年度)(1)

金額単位/千円

理学					工学				
順位	種別	機関名	件数	金額	順位	種別	機関名	件数	金額
1	国	東京大学	282	291,800	1	国	東京大学	139	132,300
2	国	京都大学	195	208,700	2	国	京都大学	85	83,600
3	国	東北大学	66	68,300	3	国	東京工業大学	84	82,200
4	国	名古屋大学	65	69,000	4	国	東北大学	78	75,500
5	国	北海道大学	61	62,800	5	国	大阪大学	67	65,500
6	国	大阪大学	59	62,000	6	国	名古屋大学	33	31,400
7	国	東京工業大学	54	61,000	7	私	早稲田大学	32	34,000
8	国	九州大学	34	35,800	7	国	九州大学	32	30,350
9	国研	高エネルギー加速器研究機構	32	33,200	9	国	北海道大学	25	24,400
10	公	東京都立大学	24	25,200	10	私	慶應義塾大学	23	22,100
10	国	筑波大学	24	23,600	11	他	(独)産業技術総合研究所	20	23,600
12	国研	岡崎国立共同研究機構	23	25,000	12	国	東京農工大学	16	15,000
13	私	早稲田大学	18	17,700	13	国	横浜国立大学	12	11,800
14	国	岡山大学	17	17,300	13	国	岐阜大学	12	10,800
15	私	東京理科大学	16	16,600	15	国	筑波大学	10	10,800
16	他	(独)産業技術総合研究所	15	16,800	15	国	豊橋技術科学大学	10	9,300
17	国研	国立天文台	14	17,300	17	国	熊本大学	9	8,600
17	国	神戸大学	14	13,400	18	国	長岡技術科学大学	8	8,600
19	国	広島大学	12	12,200	19	公	大阪府立大学	7	7,300
20	国研	宇宙科学研究所	11	12,100	19	国	神戸大学	7	7,100
21	私	慶應義塾大学	10	11,000	19	国	広島大学	7	6,900
22	国	金沢大学	9	10,200	19	国	名古屋工業大学	7	6,000
22	公	大阪市立大学	9	8,200	23	国	電気通信大学	6	6,300
24	国	新潟大学	7	8,100	23	国	千葉大学	6	5,500
24	公	姫路工業大学	7	7,800	25	国	信州大学	5	4,100
24	国	総合研究大学院大学	7	6,300	26	私	立命館大学	4	5,200
27	国	奈良女子大学	6	6,800	26	国	室蘭工業大学	4	4,300
27	国	愛媛大学	6	6,500	26	国	九州工業大学	4	4,000
27	国	奈良先端科学技術大学院大学	6	6,400	26	国	京都工芸繊維大学	4	3,800
27	国	埼玉大学	6	6,400	26	国	茨城大学	4	3,500
27	国	静岡大学	6	6,300	26	国	長崎大学	4	3,500
					26	国	北陸先端科学技術大学院大学	4	3,300
合計			1,245	1,309,400	合計			857	834,750

表2 - 6 - 2 理系「部」別採択研究課題数上位30位(2003年度)(2)

金額単位/千円

理工合計					農学				
順位	種別	機関名	件数	金額	順位	種別	機関名	件数	金額
1	国	東京大学	421	424,100	1	国	東京大学	103	105,700
2	国	京都大学	280	292,300	2	国	京都大学	77	77,300
3	国	東北大学	144	143,800	3	国	北海道大学	39	40,000
4	国	東京工業大学	138	143,200	4	国	名古屋大学	37	36,800
5	国	大阪大学	126	127,500	5	国	東北大学	24	23,300
6	国	名古屋大学	98	100,400	6	国	九州大学	16	15,900
7	国	北海道大学	86	87,200	7	国	東京農工大学	11	10,800
8	国	九州大学	66	66,150	8	国	筑波大学	10	10,000
9	私	早稲田大学	50	51,700	8	国	岐阜大学	10	9,300
10	他	(独)産業技術総合研究所	35	40,400	10	国	広島大学	9	9,600
11	国	筑波大学	34	34,400	10	国	三重大学	9	9,300
12	私	慶應義塾大学	33	33,100	12	他	(独)農業生物資源研究所	8	8,800
13	国研	高エネルギー加速器研究機構	32	33,200	13	他	(独)産業技術総合研究所	7	9,700
14	公	東京都立大学	26	27,600	13	他	(独)農業技術研究機構	7	7,700
15	国研	岡崎国立共同研究機構	23	25,000	13	国	東京水産大学	7	7,200
16	国	神戸大学	21	20,500	13	国	帯広畜産大学	7	7,100
17	国	岡山大学	19	19,400	13	国	鳥取大学	7	6,900
17	国	広島大学	19	19,100	13	国	岡山大学	7	6,700
19	私	東京理科大学	16	16,600	13	国	鹿児島大学	7	6,600
19	国	横浜国立大学	16	15,700	20	国	岩手大学	6	6,000
19	国	東京農工大学	16	15,000	20	国	千葉大学	6	5,700
22	国研	国立天文台	14	17,300	20	国	神戸大学	6	5,300
22	国研	宇宙科学研究所	14	15,300	23	国	大阪大学	5	5,600
22	国	岐阜大学	14	13,000	23	他	(独)食品総合研究所	5	5,500
25	国	金沢大学	11	11,500	23	国	愛媛大学	5	5,500
25	公	大阪府立大学	11	11,300	23	国	宮崎大学	5	5,400
25	国	千葉大学	11	11,000	23	国	琉球大学	5	3,900
25	国	熊本大学	11	10,700	28	他	(独)森林総合研究所	4	4,400
29	国	豊橋技術科学大学	10	9,300	28	他	(独)水産総合研究センター	4	4,400
30	国	埼玉大学	9	8,500	28	私	東京農業大学	4	4,100
30	国	名古屋工業大学	9	8,400	28	国	信州大学	4	3,400
30	公	大阪市立大学	9	8,200					
合計			2,102	2,144,150	合計			541	550,600

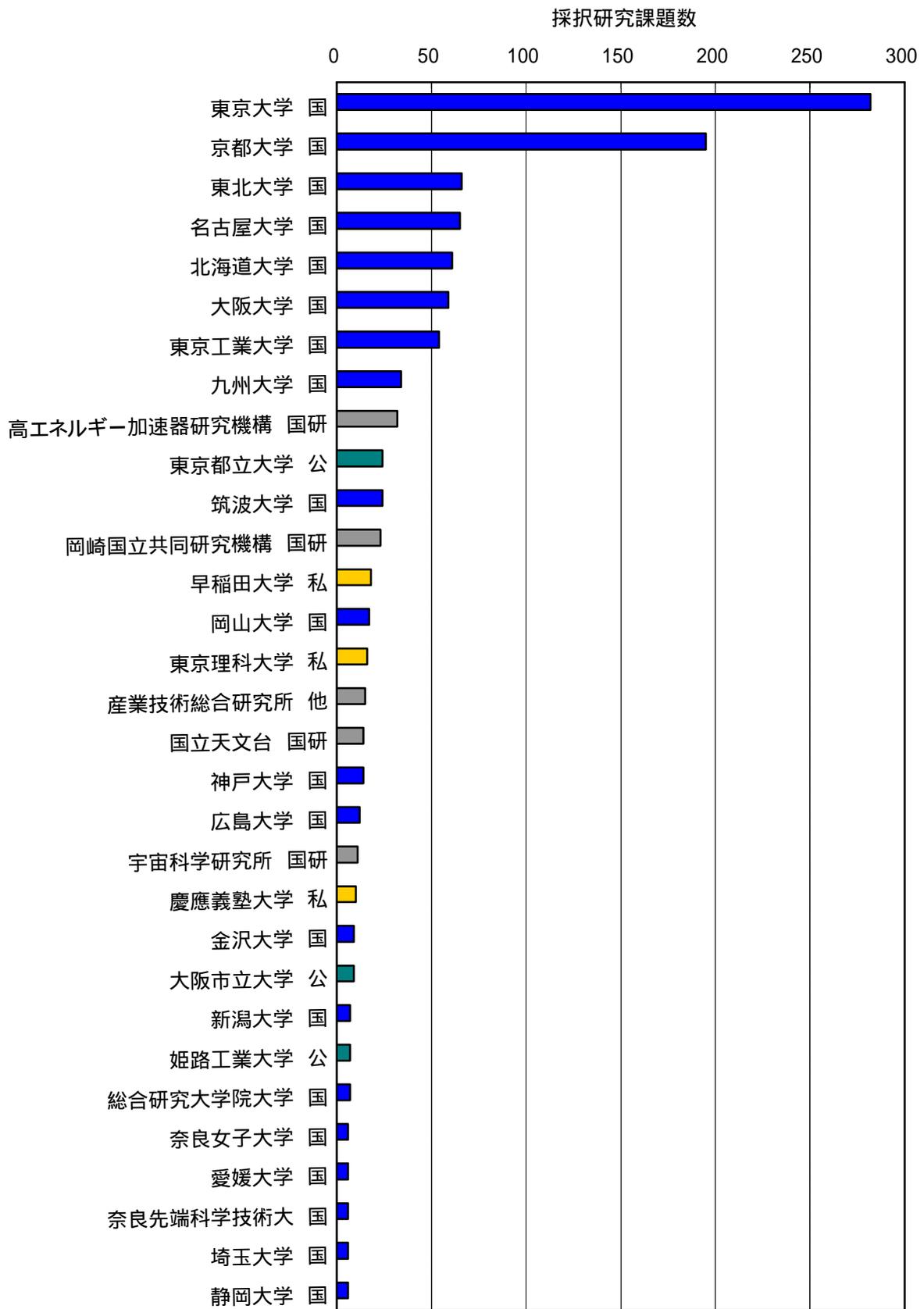


図2 - 7 - 1 理学採択研究課題数上位30位(2003年度)

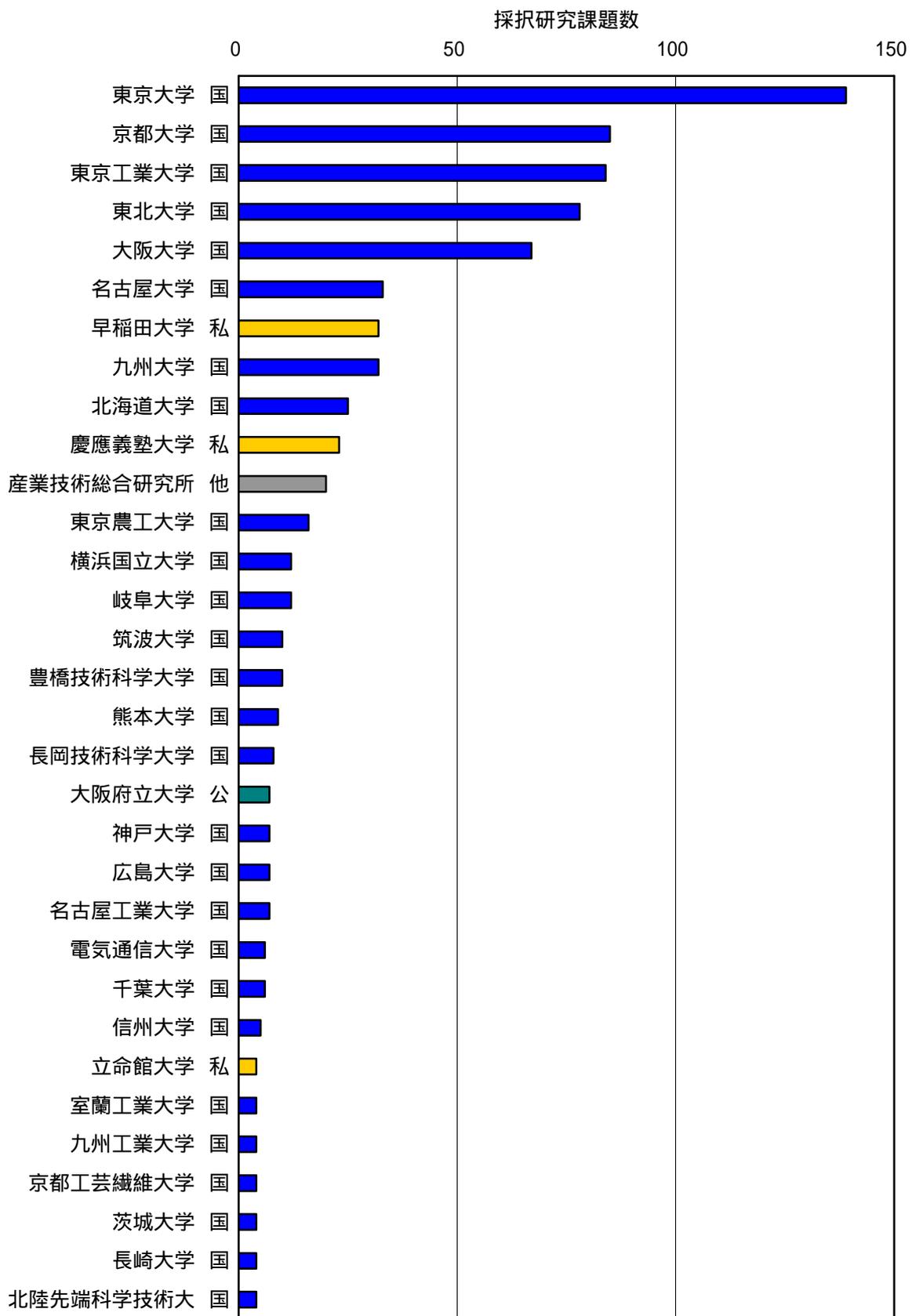


図2 - 7 - 2 工学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

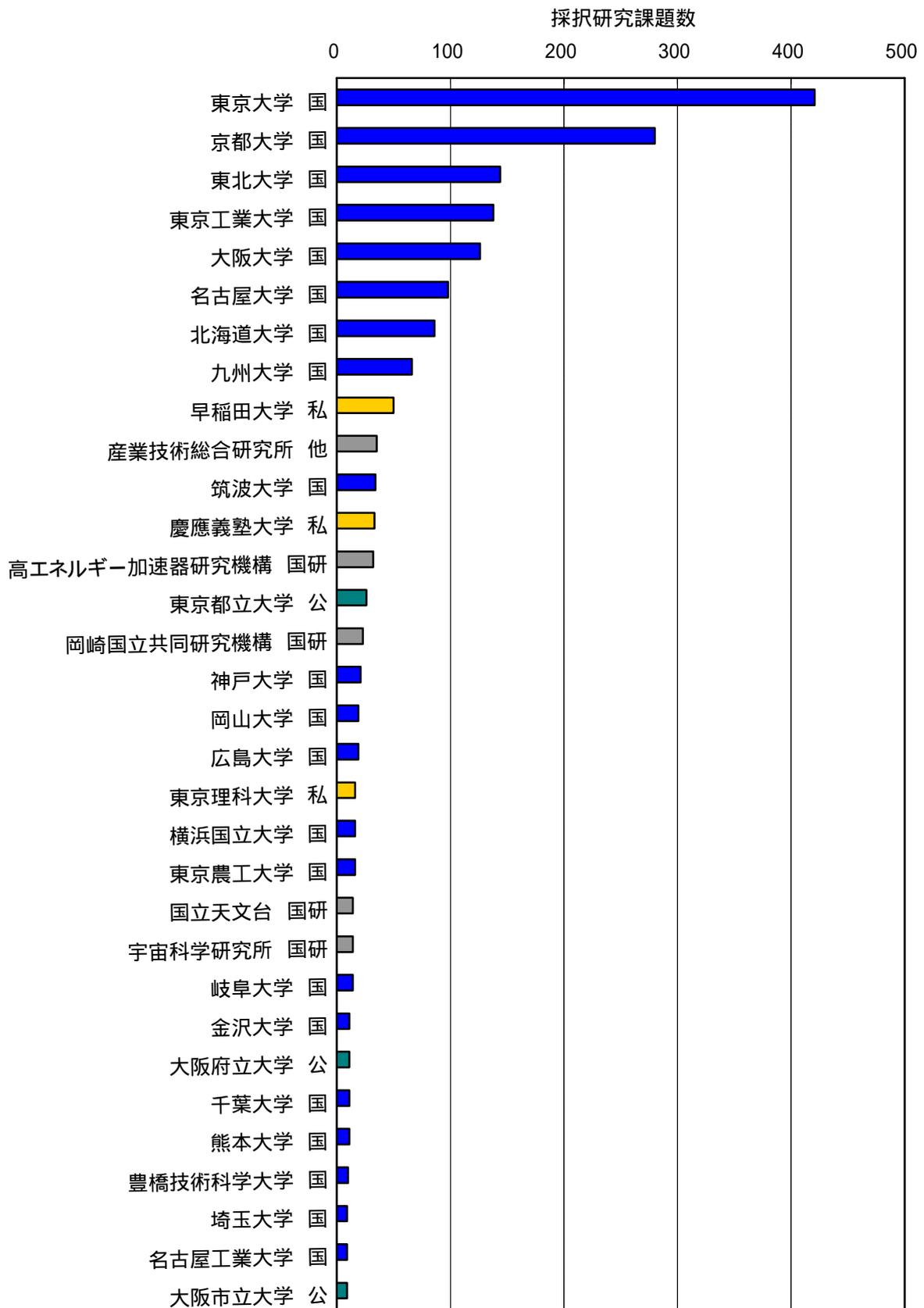


図 2 - 7 - 3 理工合計採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

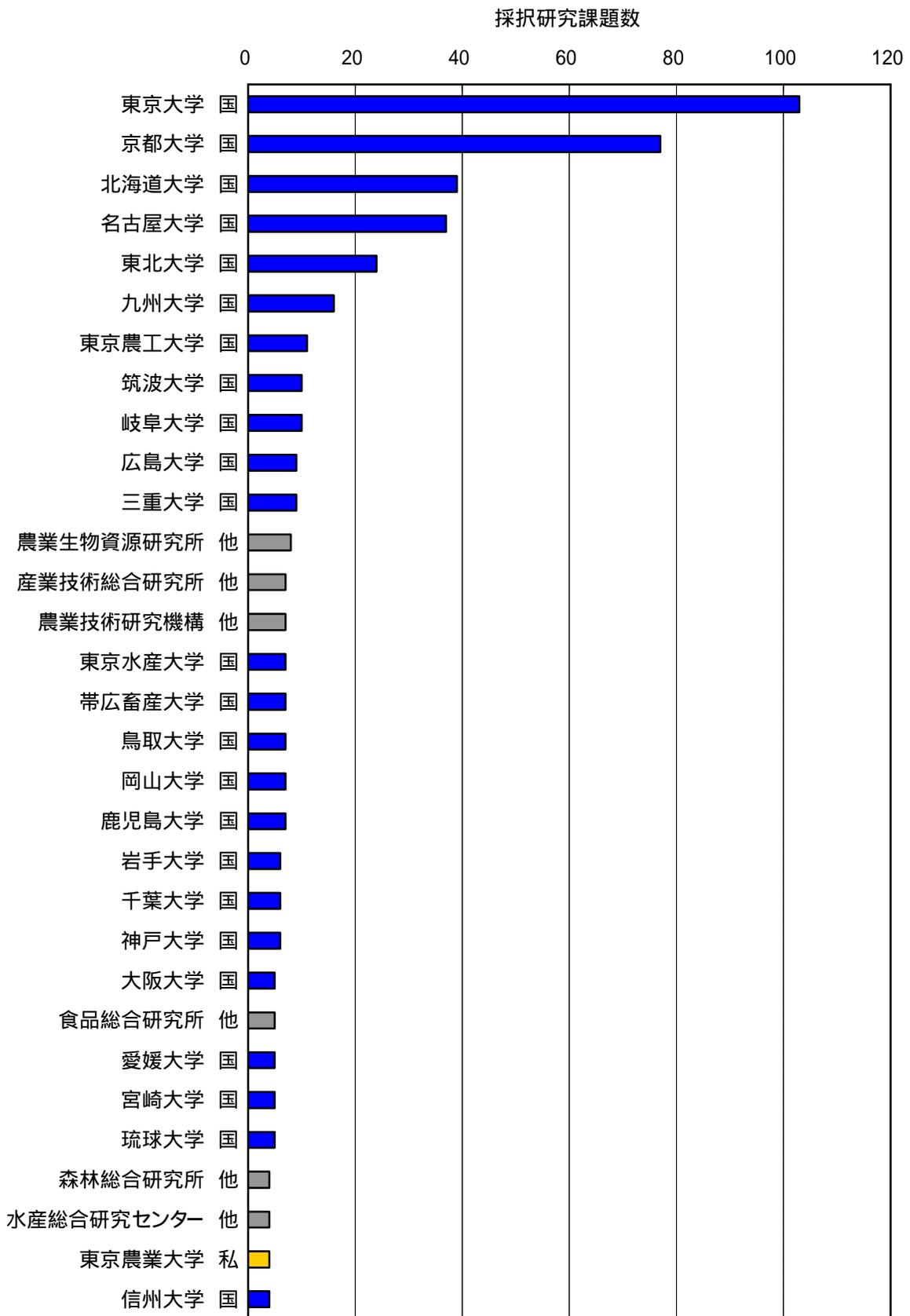


図2 - 7 - 4 農学採択研究課題数上位30位(2003年度)

2 - 3 医系（医学）

新研究コードの系：生物系に、旧研究コードの中で大まかに対応するのは、部：医学である。厳密に言えば、新研究コードの系：生物系、分野：医歯薬学が旧研究コードの部：医学に対応し、新研究コードの系：生物系は旧研究コードの部：農学と部：理学の一部を含んでいる。しかし、2002年度（平成14年度）までの5年間の採択研究課題数をまとめた結果との連続性を考慮し、部：医学のみで示すこととする。医系（部：医学と同意）全体での機関別採択研究課題数を表2 - 8に、その棒グラフを図2 - 9に示す。

特別研究員奨励費以外の個別研究種目について「分野」別に見ると、図1 - 2 - 2で示したように分野：医歯薬学が約1/3を占める。これに対して、特別研究員奨励費の採択研究課題数については、図2 - 1で示すように、医系が全体の10.3%に過ぎない。一方、2002年度（平成14年度）学校基本調査によると、大学院博士課程に在学する学生数のうち、保健分野（医学、歯学、薬学等）の学生数が全体の32.0%である。本来、個別研究は、研究者からの申請書に基づき審査されるため、分野別の採択件数は研究者総数もしくは申請総数に依存する。これらのことから、医系分野の博士課程の在学者または修了者は、研究者としてよりも高度職業人として研鑽を積むことを念頭におく者が多いとも考えられる。

医系では、東京大学が17.6%、大阪大学が11.8%であり、6位の東京医科歯科大学を筆頭に医科単科大学が数多く顔を出している。公立大学最上位の札幌医科大学、私立大学最上位の慶應義塾大学がともに1.0%である。これに対して、多少古いデータではあるが、1991年度（平成3年度）～2000年度（平成12年度）の間の保健分野における課程博士号授与数では、国立大学が全体の61.1%を占め、東京大学が最多の4.4%、大阪大学が第2位の4.2%、私立大学で最多の昭和大学が2.3%、慶應義塾大学が0.6%となっている。医系の場合には、上位10校を除けば、学位授与数との相関はほとんどないといえる。しかし、単年度のため10位以下の採択研究課題数が少なく、10位ですでに10件未満であるため、機関別順位やその占める割合に統計的に意味があるかどうかは不明である。

表 2 - 8 医学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

金額単位/千円

順位	種別	機関名	件数	金額
1	国	東京大学	88	90,400
2	国	大阪大学	59	60,300
3	国	京都大学	58	60,900
4	国	九州大学	28	30,300
5	国	北海道大学	23	24,200
6	国	東京医科歯科大学	21	22,300
7	国	東北大学	20	21,700
8	国	筑波大学	16	15,400
9	国	名古屋大学	11	12,000
10	国	岡山大学	8	8,600
10	国	千葉大学	8	8,300
10	国	長崎大学	8	7,900
10	国	新潟大学	8	7,800
14	国	徳島大学	7	6,500
15	国	神戸大学	6	6,700
15	国	愛媛大学	6	6,500
17	国	広島大学	5	5,400
17	公	札幌医科大学	5	5,300
17	私	慶應義塾大学	5	5,000
17	国	金沢大学	5	4,700
21	他	(財)癌研究会	4	4,500
21	国	熊本大学	4	4,000
21	国	岐阜大学	4	3,800
24	国	福井医科大学	3	3,600
24	他	国立療養所中部病院 (長寿医療研究センター)	3	3,300
24	私	東京理科大学	3	3,200
24	国	富山医科薬科大学	3	3,100
24	国	鳥取大学	3	3,000
24	国	山口大学	3	3,000
24	私	神戸薬科大学	3	3,000
24	国	三重大学	3	2,900
24	国	宮崎医科大学	3	2,800
24	国	群馬大学	3	2,700
合計			500	519,800

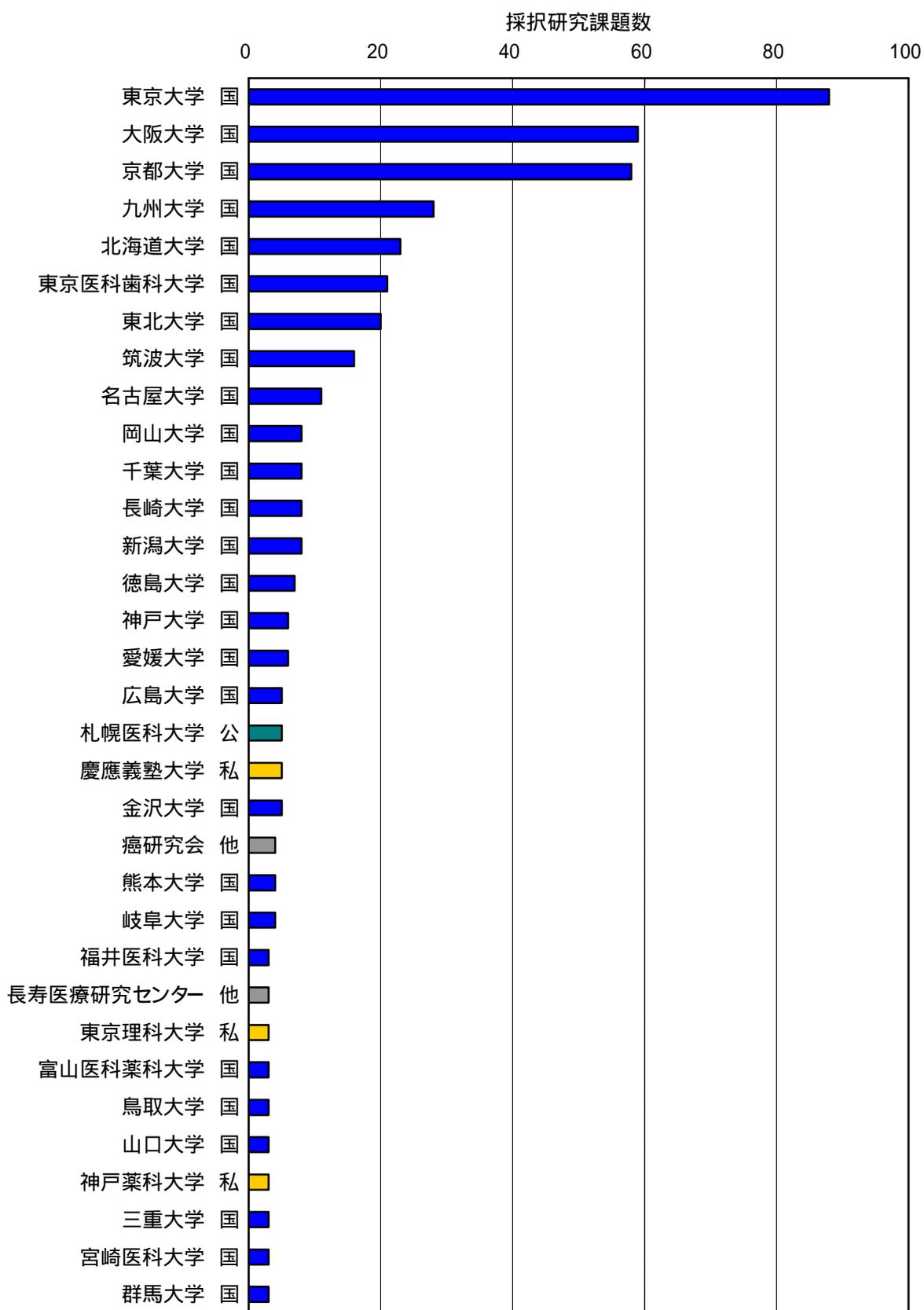


図 2 - 9 医学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

2 - 4 融合系（複合領域）

新研究コードの系：総合・新領域系は大きく改訂されているので、必ずしも対応性がよくはないが、旧研究コードの中の部：複合領域を対応させる。融合系（部：複合領域と同意）全体での機関別採択研究課題数を表 2 - 10 に、その棒グラフを図 2 - 11 に示す。

融合系の特別研究員奨励費の採択研究課題数については、東京大学、京都大学、大阪大学と続き、3 位の大阪大学と 4 位の九州大学の間で段差がある。東京大学が全体の 17.6%、京都大学が 13.2%、大阪大学が 10.2%であり、この 3 大学で約 4 割を占めている。私立大学最上位の慶應義塾大学が 1.7%に過ぎない。このような分布は、理工系の工学に近いものである。これは、部：複合領域に含まれる研究分野が理工系に偏っているためであろう。しかし、単年度のため採択研究課題数が少なく、15 位ですでに 10 件未満であるため、機関別順位やその占める割合に統計的に意味があるかどうかは不明である。

表 2 - 10 複合領域採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

金額単位/千円

順位	種別	機関名	件数	金額
1	国	東京大学	134	136,500
2	国	京都大学	101	104,400
3	国	大阪大学	78	80,400
4	国	九州大学	35	36,600
5	国	東北大学	32	35,100
5	国	名古屋大学	32	32,000
7	国	北海道大学	23	23,000
7	国	東京工業大学	23	21,500
9	国	筑波大学	22	21,700
10	他	(独)産業技術総合研究所	17	19,200
11	国研	岡崎国立共同研究機構	15	17,500
12	私	慶應義塾大学	13	12,100
13	国	広島大学	12	11,300
14	国	奈良先端科学技術大学院大学	10	9,600
15	国	金沢大学	8	8,800
15	私	早稲田大学	8	8,100
17	国研	国立遺伝学研究所	6	6,800
17	国研	核融合科学研究所	6	5,700
17	国	千葉大学	6	5,600
17	国	神戸大学	6	5,200
21	公	大阪市立大学	5	5,300
21	国	愛媛大学	5	5,300
21	公	東京都立大学	5	5,000
21	国	新潟大学	5	3,700
25	国	熊本大学	4	4,800
25	他	(財)東京都医学研究機構	4	4,600
25	公	横浜市立大学	4	4,400
25	国	お茶の水女子大学	4	4,400
25	他	国立精神・神経センター	4	4,400
25	国	東京農工大学	4	4,300
25	国	静岡大学	4	4,300
25	国	総合研究大学院大学	4	4,200
25	私	玉川大学	4	4,100
25	国	岐阜大学	4	3,600
25	公	姫路工業大学	4	3,500
		合計	763	780,800

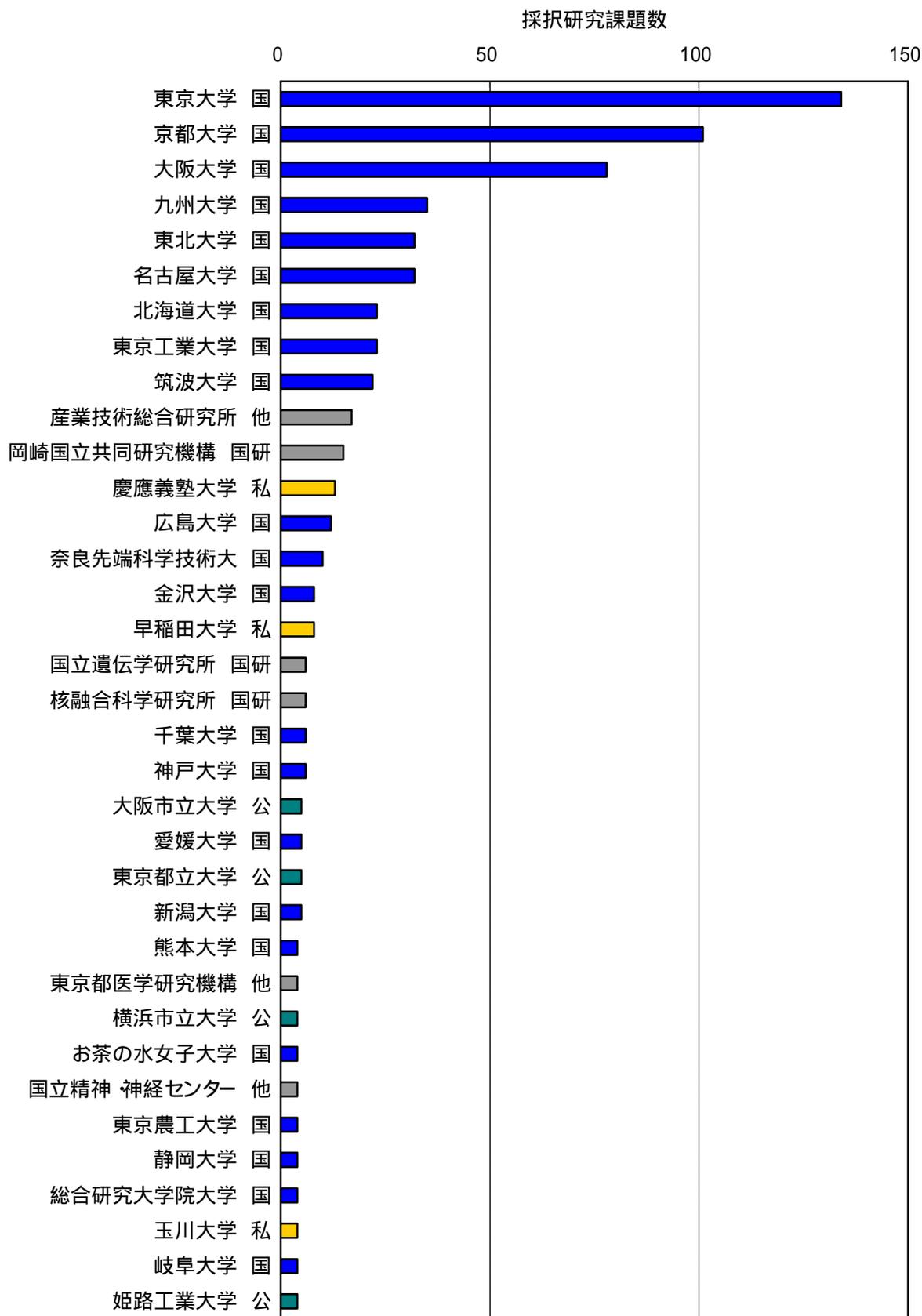


図2 - 11 複合領域採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

末尾になったが、この一連の科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度の調査研究にあたって、データの整理、編集、図表の作成をお願いした東京大学生産技術研究所の斉藤加余子氏に感謝の意を表する。

付録

付録表 - 1 部・分科・細目表 2002年度(平成14年度)版(1)

部	分科	細目	コード
法学	基礎法学		261
	公法学		262
	国際法学		263
	民事法学		264
	社会法学		265
	刑事法学		266
	政治学		267
経済学	経済理論		271
	経済統計学		272
	経済政策(含経済事情)		273
	経済史		274
	財政学・金融論		275
	商学		276
	経営学		277
	会計学		278
文学	哲学	哲学	211
		中国哲学	212
		印度哲学(含仏教学)	213
		宗教学	214
		倫理学	215
		思想史	216
		美学(含芸術諸学)	217
		美術史	218
	心理学・社会学・教育学・文化人類学	実験系心理学	221
		教育・社会系心理学	222
		社会学(含社会福祉関係)	223
		教育学	224
		文化人類学(含民族学・民俗学)	225
	史学	日本史	231
		東洋史	232
		西洋史	233
		考古学(含先史学)	234
	文学	国語学	241
		国文学	242
		中国語・中国文学	243
		英語・英米文学	244
		仏語・仏文学	245
		独語・独文学	246
		その他の外国語・外国文学	247
		言語学・音声学	248
		文学一般(含文学論・比較文学)・西洋古典	249

付録表 - 2 部・分科・細目表 2002年度(平成14年度)版(2)

部	分科	細目	コード
理 学	数学	代数学	301
		幾何学	302
		数学一般(含確率論・統計数学)	304
		基礎解析学	305
		大域解析学	306
	天文学		311
	物理学	素粒子・核・宇宙線	321
		固体物性I(光物性・半導体・誘電体)	322
		固体物性II(磁性・金属・低温)	323
		物性一般(含基礎論)	324
		物理学一般	325
	地球科学	固体地球物理学	331
		気象・海洋物理・陸水学	332
		超高層物理学	333
		地質学	334
		層位・古生物学	335
		岩石・鉱物・鉱床学	336
		地球化学	337
	化学	物理化学	341
		有機化学	342
		無機化学	343
		機能・物性・材料	344
		物質変換	345
		分離・精製・検出法	346
	生物学	遺伝	351
		生態	352
		植物生理	353
		生物形態・構造	354
		動物生理・代謝	355
		系統・分類	356
人類学(含生理人類学)		361	

付録表 - 3 部・分科・細目表 2002年度(平成14年度)版(3)

部	分科	細目	コード
工 学	応用物理学・工学基礎	応用物性 結晶工学	401
		表面界面物性	402
		応用光学・量子光工学	403
		応用物理学一般	404
		工学基礎	405
	機械工学	機械材料・材料力学	411
		機械工作・生産工学	412
		設計工学 機械要素・トライボロジー	413
		流体工学	414
		熱工学	415
		機械力学 制御	416
		知能機械学 機械システム	417
	電気電子工学	電力工学 電気機器工学	421
		電子 電気材料工学	422
		電子デバイス 機器工学	423
		情報通信工学	424
		システム工学	425
		計測工学	427
		制御工学	428
	土木工学	土木材料 力学一般	431
		構造工学 地震工学	432
		地盤工学	433
		水工水理学	434
		交通工学 国土計画	435
		土木環境システム	436
	建築学	建築構造 材料	441
		建築環境 設備	442
		都市計画 建築計画	443
		建築史 意匠	444
	材料工学	金属物性	451
		無機材料 物性	452
		複合材料 物性	453
		構造 機能材料	454
		材料加工 処理	455
		金属生産工学	456
	プロセス工学	化学工学一般	461
		反応 分離工学	462
		触媒 化学プロセス	463
		生物 生体工学	464
		工業分析化学	465
	工業化学	工業物理化学	471
		無機工業化学	472
		有機工業化学	473
		合成化学	474
		高分子合成	475
		高分子構造 物性(含繊維)	476
	総合工学	航空宇宙工学	481
		船舶工学	482
海洋工学		483	
資源開発工学		484	

付録表 - 4 部・分科・細目表 2002年度(平成14年度)版(4)

部	分科	細目	コード
農学	農学	育種学	501
		作物学	502
		園芸・造園学	503
		植物保護	504
		蚕糸・昆虫利用学	505
	農芸化学	植物栄養学・土壌学	511
		応用微生物学・応用生物化学	512
		生物生産化学・生物有機化学	513
		食品科学・栄養科学	514
	林学	林学	521
		林産学	522
	水産学	水産学一般	531
		水産化学	532
	農業経済学		541
	農業工学	農業土木学・農村計画学	551
		農業機械学	552
		生物環境	553
	畜産学・獣医学	畜産学・草地学	561
		応用動物科学	562
		基礎獣医学・基礎畜産学	563
応用獣医学		564	
境界農学	生物資源科学	571	
	応用分子細胞生物学	572	
医学	生理	解剖学一般(含組織学・発生学)	601
		生理学一般	602
		環境生理学(含体力医学・栄養生理学)	603
		薬理学一般	604
		医化学一般	605
		病態医化学	606
	病理	人体病理学	611
		実験病理学	612
		寄生虫学(含医用動物学)	613
		細菌学(含真菌学)	614
		ウイルス学	615
		免疫学	616
	社会医学	衛生学	621
		公衆衛生学・健康科学	622
		法医学	623

付録表 - 5 部・分科・細目表 2002年度(平成14年度)版(5)

部	分科	細目	コード
医学 (続き)	内科	内科学一般	631
		消化器内科学	632
		呼吸器内科学	633
		神経内科学	634
		循環器内科学	635
		小児科学	636
		皮膚科学	637
		放射線科学	638
		精神神経科学	639
		血液内科学	641
		腎臓内科学	642
		胎児・新生児医学	643
		内分泌学	644
		代謝学	645
		外科	外科学一般
	消化器外科学		652
	胸部外科学		653
	脳神経外科学		654
	整形外科学		655
	麻酔・蘇生学		656
	泌尿器科学		657
	産婦人科学		658
	耳鼻咽喉科学		659
	眼科学		660
	小児外科		661
	形成外科学		662
	歯学	形態系基礎歯科学	671
		機能系基礎歯科学	672
		病態科学系歯学(含放射線系歯学)	673
		保存治療系歯学	674
		補綴理工系歯学	675
		外科系歯学	676
		矯正・小児・社会系歯学	677
	歯周治療系歯学	678	
	薬学	化学系薬学	681
		物理系薬学	682
		生物系薬学	683
		医薬分子機能学	684
		環境系薬学	685
	医学一般	医療社会学	691
		人類遺伝学	692
		応用薬理学・医療系薬学	693
病態検査学		694	
看護学	基礎・地域看護学	696	
	臨床看護学	697	

付録表 - 6 部・分科・細目表 2002年度(平成14年度)版(6)

部	分科	細目	コード
複合領域	科学技術史(含科学社会学 科学技術基礎論)		702
	体育学		703
	地理学	人文地理学	704
		自然地理学	705
	家政学	家政学一般(含衣 住環境)	706
		食生活	707
	文化財科学		708
	科学教育 教科教育学	科学教育	711
		教育工学	712
		教科教育	713
		日本語教育	714
	統計科学		721
	情報科学	計算機科学	731
		知能情報学	732
		情報システム学(含情報図書館学)	733
	社会システム工学		741
	自然災害科学		751
	プラズマ理工学		761
	エネルギー学	核融合学	772
		エネルギー学一般	773
		原子力学	774
	環境科学	環境動態解析	801
		環境影響評価(含放射線生物学)	802
		環境保全	803
	生物化学	生物有機化学	811
		構造生物化学	812
		機能生物化学	813
	基礎生物科学	生物物理学	821
		分子生物学	822
		細胞生物学	823
発生生物学		824	
神経科学(含脳科学)	神経解剖学 神経病理学	831	
	神経化学 神経薬理学	832	
	神経科学一般	833	
	神経 筋肉生理学	834	
実験動物学		841	
医用生体工学 生体材料学		851	
広領域			999